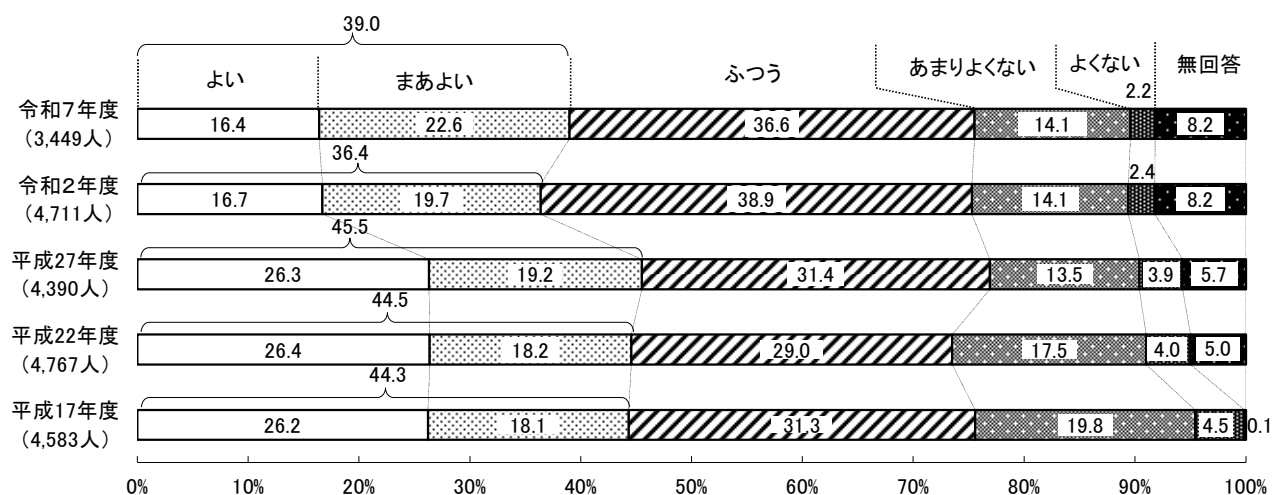


第3章 健康

1 健康状態

健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「ふつう」の割合が36.6%で最も高く、次いで「まあよい」が22.6%となっている。また、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は39.0%となっている。(図3-1)

図3-1 健康状態－過去調査との比較

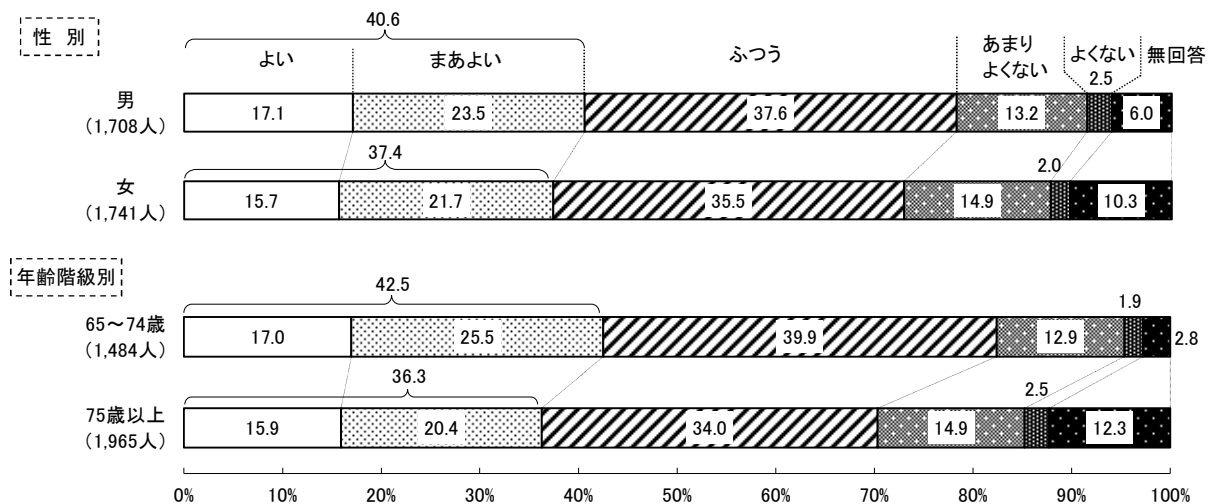


(1) 健康状態－性、年齢階級別

健康状態を性別でみると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、男性 40.6%、女性 37.4%であった。

年齢階級別にみると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、前期高齢者（65～74歳）は 42.5%であるが、後期高齢者（75歳以上）は 36.3%で、前期高齢者に比べて 6.2ポイント低くなっている。（図 3-2）

図 3-2 健康状態－性、年齢階級別

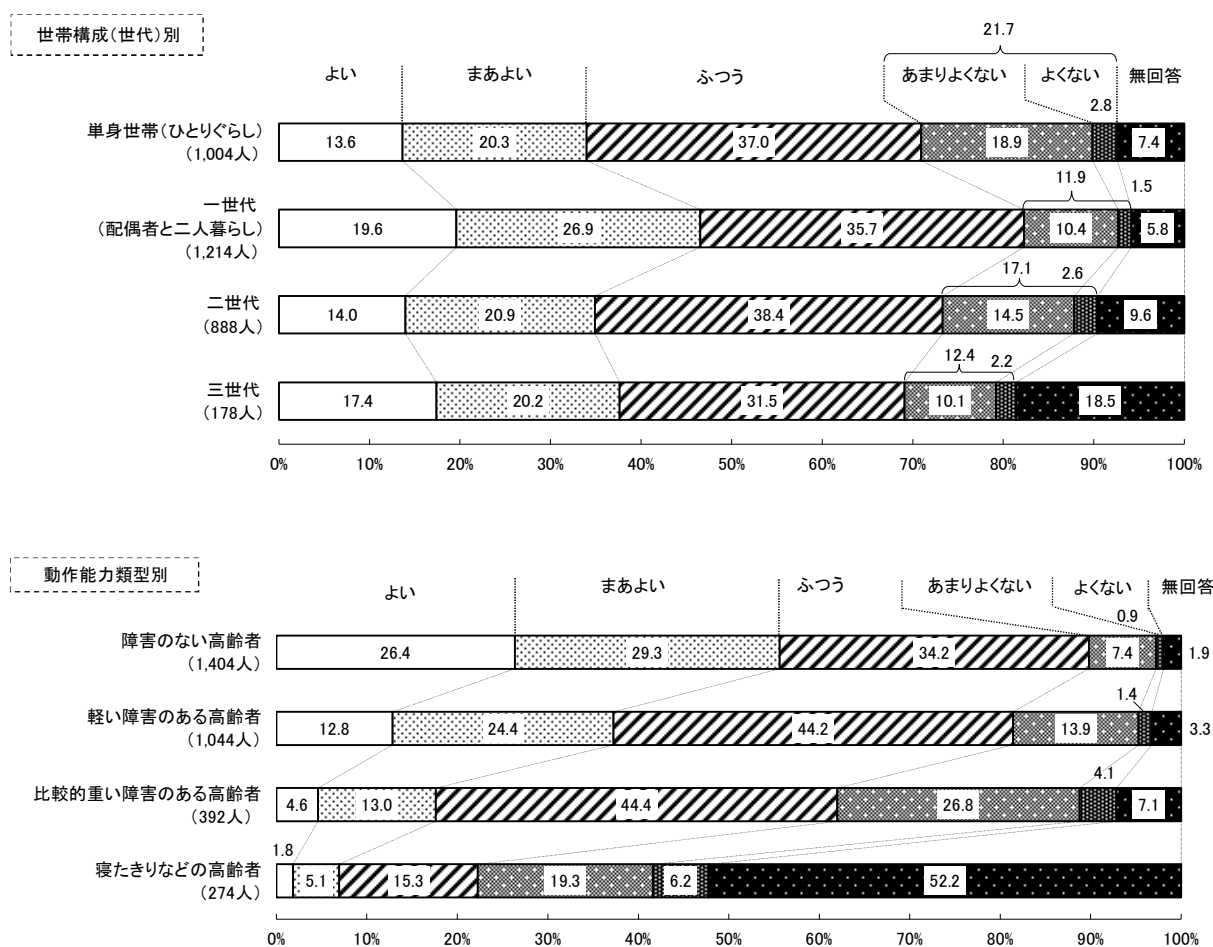


(2) 健康状態―世帯構成（世代）、動作能力類型別

健康状態が「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、単身世帯（ひとりぐらし）が約2割

世帯構成（世代）別にみると、健康状態が「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、単身世帯（ひとりぐらし）が21.7%と他の世帯構成に比べて高くなっている。
（図 3-3）

図 3-3 健康状態―世帯構成（世代）、動作能力類型別



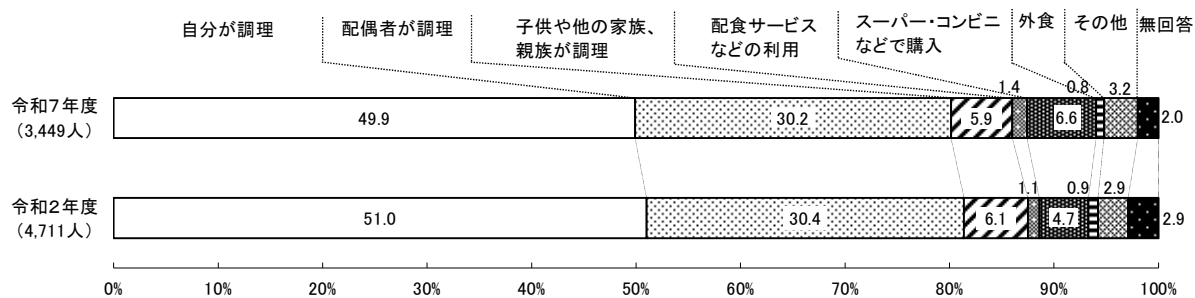
(注) 動作能力類型は、50 頁を参照。

2 食事の状況

普段の食事の用意は、「自分が調理」の割合が最も高く、約5割

普段の食事の状況について聞いたところ、食事の用意は「自分が調理」の割合が49.9%で最も高く、次いで「配偶者が調理」が30.2%となっている。(図3-4)

図3-4 食事の状況－令和2年度調査との比較



(1) 食事の状況一性・年齢階級、配偶者の有無別

普段の食事は、男性では「配偶者が調理」の割合が最も高く、58.4%
女性では「自分が調理」が最も高く、77.1%

普段の食事の状況を性別でみると、男性では「配偶者が調理」の割合が58.4%で最も高くなっている。一方、女性では「自分が調理」の割合が77.1%で最も高くなっている。

性・年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「子供や他の家族、親族が調理」の割合が高くなり、85歳以上では男性15.7%、女性23.5%となっている。

配偶者の有無別にみると、配偶者のいる男性は「配偶者が調理」の割合が79.0%となっている。一方、配偶者のいる女性は「自分が調理」の割合が85.0%となっている。

(表3-1)

表3-1 食事の状況一性・年齢階級、配偶者の有無別

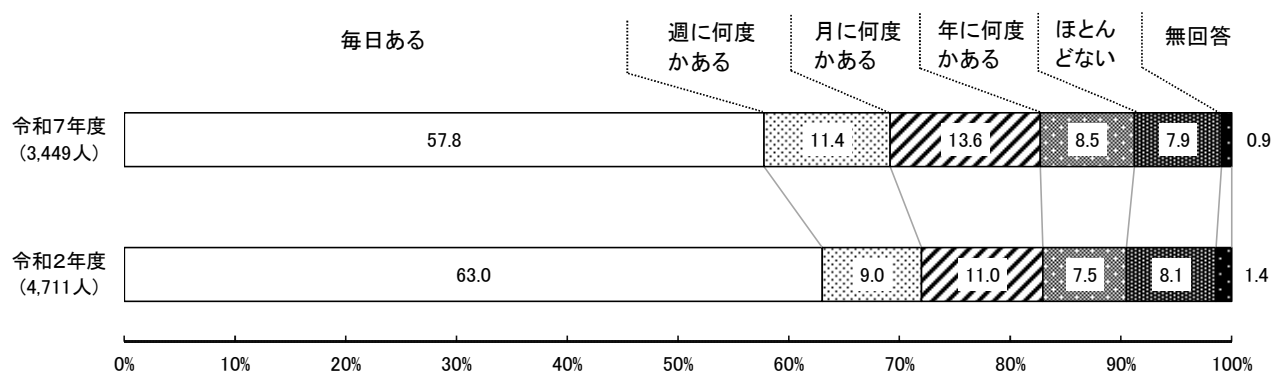
		総数	自分が調理	配偶者が調理	子供や他の家族、親族が調理	配食サービスなどの利用	スーパー・コンビニなどで購入	外食	その他	無回答
総数		100.0 (3,449)	49.9	30.2	5.9	1.4	6.6	0.8	3.2	2.0
性・年齢階級別	男	100.0 (1,708)	22.2	<u>58.4</u>	4.3	1.2	8.3	1.3	2.5	1.8
	65～74歳	100.0 (815)	23.3	59.3	1.6	0.6	9.7	2.0	2.2	1.3
	75～84歳	100.0 (695)	21.3	60.1	4.3	1.0	8.1	1.0	1.9	2.3
	85歳以上	100.0 (198)	20.7	48.5	<u>15.7</u>	4.0	3.5	—	5.6	2.0
	女	100.0 (1,741)	<u>77.1</u>	2.6	7.4	1.7	4.9	0.2	4.0	2.1
	65～74歳	100.0 (669)	87.7	2.8	1.6	0.3	4.0	0.1	1.6	1.6
	75～84歳	100.0 (731)	80.7	2.6	5.1	1.0	6.3	0.3	2.2	1.9
	85歳以上	100.0 (341)	48.4	2.3	<u>23.5</u>	5.9	3.8	—	12.6	3.5
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (1,967)	38.2	53.0	2.0	0.5	2.3	0.3	1.8	1.9
	男	100.0 (1,262)	12.0	<u>79.0</u>	1.8	0.6	2.4	0.4	2.1	1.7
	女	100.0 (705)	<u>85.0</u>	6.5	2.3	0.3	2.3	—	1.4	2.3
	配偶者なし	100.0 (1,482)	65.5	—	11.0	2.7	12.3	1.4	5.1	2.0
	未婚	100.0 (341)	61.6	—	5.3	1.5	23.8	3.8	2.6	1.5
	死別	100.0 (844)	64.1	—	15.6	3.7	6.6	0.7	7.0	2.3
	離別	100.0 (297)	73.7	—	4.4	1.3	15.2	0.7	2.7	2.0

3 誰かと一緒に食事をする機会

誰かと一緒に食事をする機会は、「毎日ある」割合が最も高く、57.8%

誰かと一緒に食事をする機会がどれくらいあるか聞いたところ、「毎日ある」割合が57.8%で最も高く、次いで「月に何度かある」が13.6%となっている。（図 3-5）

図 3-5 誰かと一緒に食事をする機会－令和2年度調査との比較



(1) 誰かと一緒に食事をする機会－性・年齢階級、世帯類型別

誰かと一緒に食事をする機会は、ひとりぐらしでは「月に何度かある」が最も高く、33.3%

誰かと一緒に食事をする機会を性別でみると、男女とも「毎日ある」割合が最も高く、男性 61.7%、女性 54.0%となっている。

性・年齢階級別にみると、男性では年齢階級が上がるにつれて、「毎日ある」割合が高くなっている（59.9%～63.2%）。75歳以上の女性では「毎日ある」割合が 49.4%で最も低くなっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしは「月に何度かある」割合が 33.3%で最も高く、次いで「週に何度かある」が 20.2%となっている。（表 3-2）

表 3-2 誰かと一緒に食事をする機会－性・年齢階級、世帯類型別

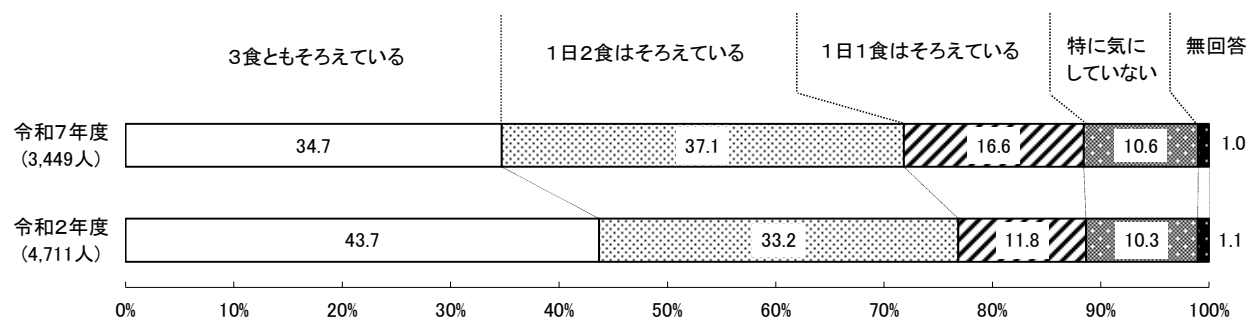
		総 数	毎 日 あ る	週 に 何 度 か あ る	月 に 何 度 か あ る	年 に 何 度 か あ る	ほ と ん ど な い	無 回 答
総数		100.0 (3,449)	57.8	11.4	13.6	8.5	7.9	0.9
性・ 年齢 階級 別	男	100.0 (1,708)	<u>61.7</u>	9.1	10.2	8.3	10.1	0.6
	65～69歳	100.0 (414)	<u>59.9</u>	12.1	11.1	6.8	9.9	0.2
	70～74歳	100.0 (401)	<u>60.1</u>	10.0	11.2	9.0	9.7	－
	75歳以上	100.0 (893)	<u>63.2</u>	7.3	9.4	8.7	10.3	1.1
	女	100.0 (1,741)	<u>54.0</u>	13.6	16.8	8.7	5.7	1.1
	65～69歳	100.0 (325)	61.2	14.8	12.0	7.7	3.1	1.2
	70～74歳	100.0 (344)	61.3	11.3	13.4	9.3	4.4	0.3
	75歳以上	100.0 (1,072)	<u>49.4</u>	14.0	19.4	8.8	7.0	1.4
世帯 類型 別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	49.4	12.1	17.4	11.2	9.3	0.6
	ひとりぐらし	100.0 (1,004)	9.0	<u>20.2</u>	<u>33.3</u>	19.3	17.3	0.9
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	83.7	5.1	3.7	4.7	2.5	0.4
	その他	100.0 (119)	78.2	7.6	8.4	2.5	3.4	－
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	73.9	10.4	6.6	3.7	4.8	0.6

4 食事のバランス

普段の食事で主食・主菜・副菜を「1日2食はそろえている」割合が最も高く、37.1%

普段の食事で主食（ご飯、パン、麺類など）、主菜（肉、魚、卵、豆腐などの大豆製品を使ったおかず）、副菜（野菜を使ったおかず）をそろえた食事をしているか聞いたところ、「1日2食はそろえている」割合が37.1%で最も高くなっている。次いで「3食ともそろえている」割合が34.7%で、令和2年度調査に比べて9.0ポイント減少している。（図3-6）

図3-6 食事のバランスー令和2年度調査との比較



(1) 食事のバランスー性・年齢階級、世帯類型別

主食・主菜・副菜を「3食ともそろえている」割合は、男女とも年齢階級が上がるとともに増加

食事のバランスを性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「3食ともそろえている」割合が高くなり、75歳以上では男性 39.8%、女性 38.6%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしは「3食ともそろえている」割合が 23.6%で、総数の割合（34.7%）と比べて 11.1 ポイント低い割合になっている。（表 3-3）

表 3-3 食事のバランスー性・年齢階級、世帯類型別

		総数	3食ともそろえている	1日2食はそろえている	1日1食はそろえている	特に気にしていない	無回答
総数		100.0 (3,449)	<u>34.7</u>	37.1	16.6	10.6	1.0
性・年齢階級別	男	100.0 (1,708)	33.8	35.6	17.3	12.4	0.8
	65～69歳	100.0 (414)	24.6	34.3	22.9	17.6	0.5
	70～74歳	100.0 (401)	30.2	36.9	22.4	10.5	—
	75歳以上	100.0 (893)	<u>39.8</u>	35.6	12.4	10.9	1.3
	女	100.0 (1,741)	35.6	38.6	15.9	8.7	1.2
	65～69歳	100.0 (325)	30.2	37.2	23.4	8.0	1.2
	70～74歳	100.0 (344)	31.1	42.4	17.7	8.1	0.6
	75歳以上	100.0 (1,072)	<u>38.6</u>	37.8	13.1	9.1	1.4
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	34.3	37.4	16.0	11.6	0.8
	ひとりぐらし	100.0 (1,004)	<u>23.6</u>	34.7	20.8	19.9	1.0
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	43.8	39.0	12.3	4.4	0.6
	その他	100.0 (119)	37.8	46.2	9.2	5.9	0.8
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	35.8	36.7	18.2	8.7	0.6

5 日常生活動作（ADL）

日常生活動作（ADL）を、「聴力」「視力」「意思伝達」「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排せつ」の基本項目と、「家事一般」「金銭の管理」「薬の管理」「電話の利用」の項目、さらに行動範囲を中心とした「総合」に分けて聞いた。

（１）日常生活動作（ADL）（聴力、視力、意思伝達、歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）

日常生活動作（聴力、視力、意思伝達）の項目において、「日常生活に多少支障がある」と「日常生活に支障がある」を合わせた割合は、「聴力」17.3%、「視力」13.6%、「意思伝達」8.6%となっている。（図 3-7）

日常生活動作（ADL）（歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）のいずれの項目においても、8割以上の方が「ひとりで全部できる」と回答している。（図 3-8）

図 3-7 日常生活動作（ADL）（聴力、視力、意思伝達）

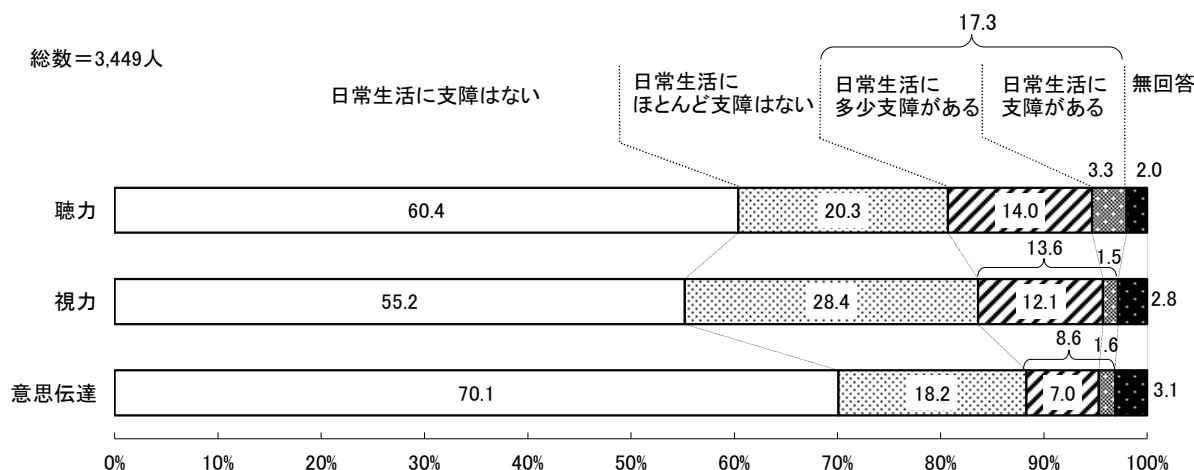
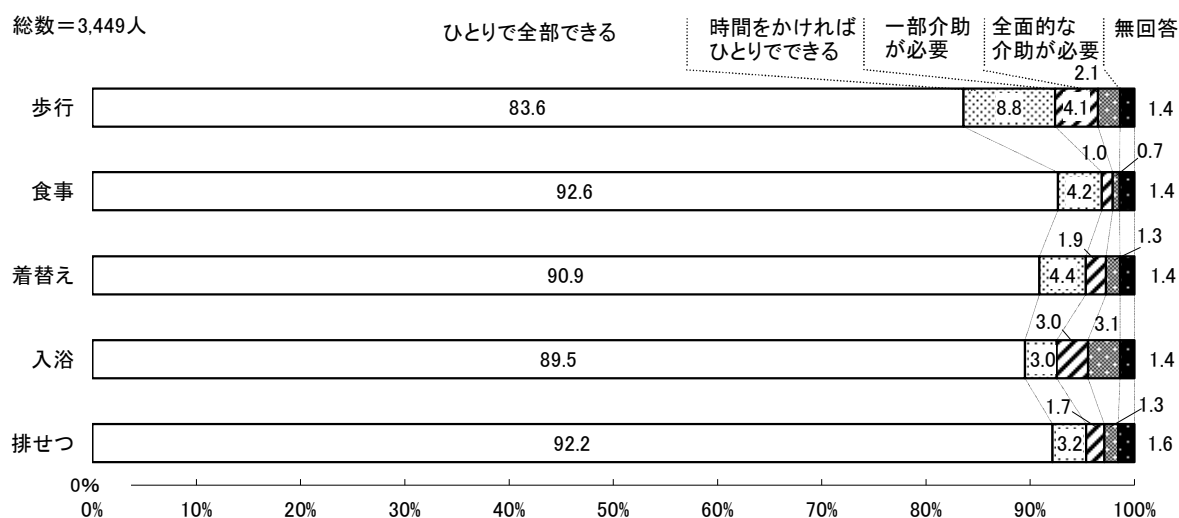


図 3-8 日常生活動作（ADL）（歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）



8 項目の回答状況を、段階 A・B に分けて表示したのが表 3-4 である。

表 3-4 日常生活動作（ADL）

（注）A・B 欄は「動作能力類型」（P50 参照）を作成するための分類である。

（単位：％）

	A		B	
聴 力 ※1	1 日常生活に支障はない	60.4	4 日常生活に支障がある	3.3
	2 日常生活にほとんど支障はない	20.3		
	3 日常生活に多少支障がある	14.0		
視 力 ※2	1 日常生活に支障はない	55.2	3 日常生活に多少支障がある	12.1
	2 日常生活にほとんど支障はない	28.4	4 日常生活に支障がある	1.5
意 思 伝 達	1 日常生活に支障はない	70.1	3 日常生活に多少支障がある	7.0
	2 日常生活にほとんど支障はない	18.2	4 日常生活に支障がある	1.6
歩 行 ※3	1 ひとりで全部できる	83.6	3 一部介助が必要	4.1
	2 時間をかければひとりでできる	8.8	4 全面的な介助が必要	2.1
食 事	1 ひとりで全部できる	92.6	3 一部介助が必要	1.0
	2 時間をかければひとりでできる	4.2	4 全面的な介助が必要	0.7
着 替 え	1 ひとりで全部できる	90.9	3 一部介助が必要	1.9
	2 時間をかければひとりでできる	4.4	4 全面的な介助が必要	1.3
入 浴	1 ひとりで全部できる	89.5	3 一部介助が必要	3.0
	2 時間をかければひとりでできる	3.0	4 全面的な介助が必要	3.1
排せつ	1 ひとりで全部できる	92.2	3 一部介助が必要	1.7
	2 時間をかければひとりでできる	3.2	4 全面的な介助が必要	1.3

（注 1）※ 1 普段、補聴器を使用している場合は、補聴器を使用した状態で回答している。

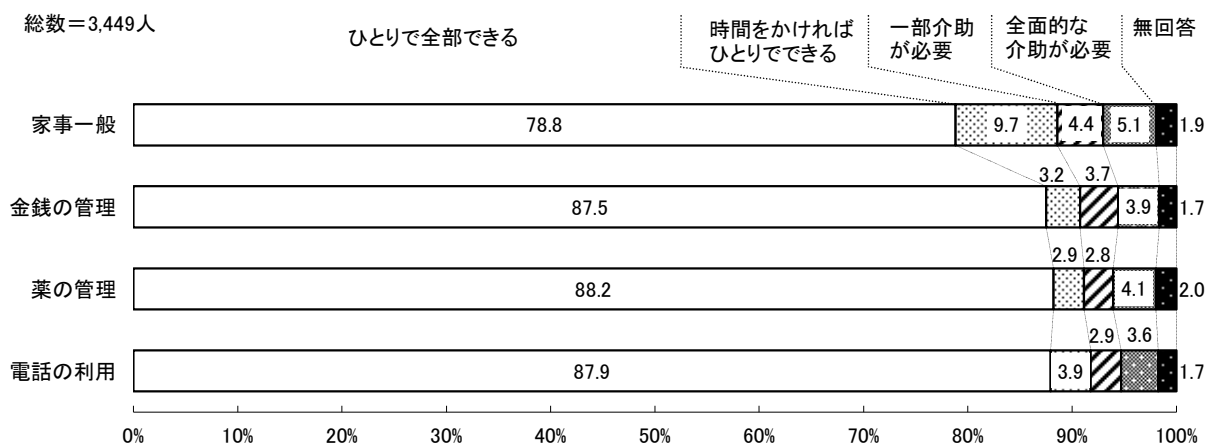
（注 2）※ 2 普段、メガネを使用している場合は、メガネを使用した状態で回答している。

（注 3）※ 3 普段、杖や車椅子などを使用している場合は、それらを使用した状態で回答している。

（２）日常生活動作（ＡＤＬ）（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）

日常生活動作（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）の項目において、「ひとりで全部できる」割合は、「家事一般」78.8%、「金銭の管理」87.5%、「薬の管理」88.2%、「電話の利用」87.9%となっている。（図 3-9）

図 3-9 日常生活動作（ＡＤＬ）（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）



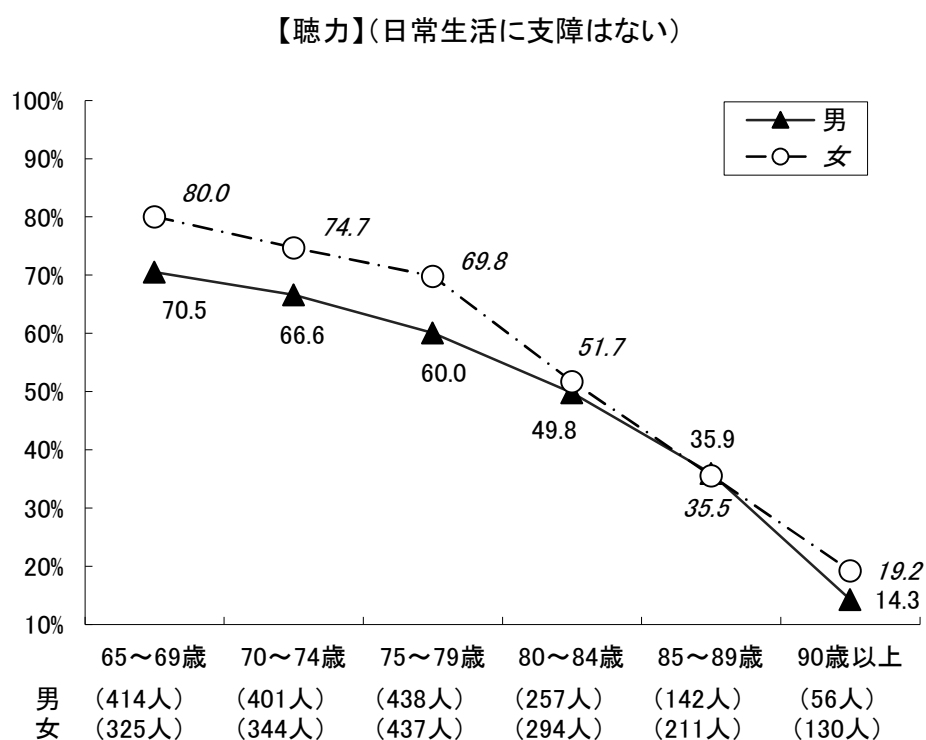
(3) 日常生活動作（ADL）に問題のない高齢者の割合－性・年齢階級別

下記の図 3-10 の各図は、日常生活動作（ADL）の各項目で「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答した人の割合を性・年齢階級別に示したものである。

年齢が高くなるとともに、「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」の割合は、概ね低くなっている。

性・年齢階級別でみると、「聴力」、「視力」の項目において、「65～69 歳」では男性の方が女性より 8 ポイント以上低い割合になっている。「歩行」、「食事」、「着替え」、「入浴」、「排せつ」の項目においては、「65～69 歳」では男女に差異はあまりみられないが、「電話の利用」の項目において、「90 歳以上」では、男性の方が女性より 10 ポイント以上低い割合になっている。（図 3-10）

図 3-10 日常生活動作（ADL）に問題のない高齢者の割合－性・年齢階級別

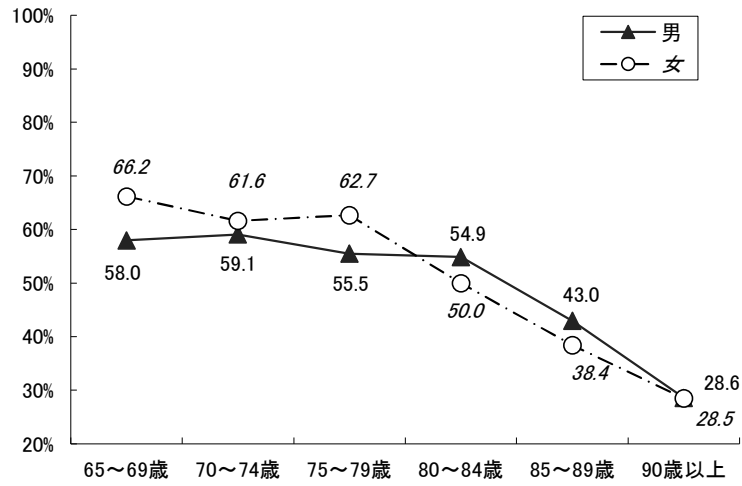


(注 1) () 内の数値は性・年齢階級別の総数である。他の項目は省略してあるが、同じ数値である。

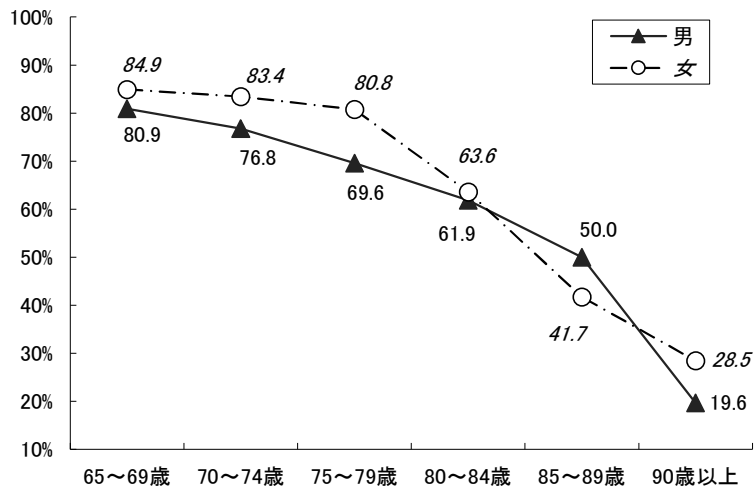
(注 2) 折れ線グラフの数値は、日常生活動作（ADL）の各項目で「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答した高齢者の割合である。他の項目も同様。

(注 3) 調査は、在宅の高齢者のみが対象のため、回答者の傾向として比較的元気な方が多いことが予想される。

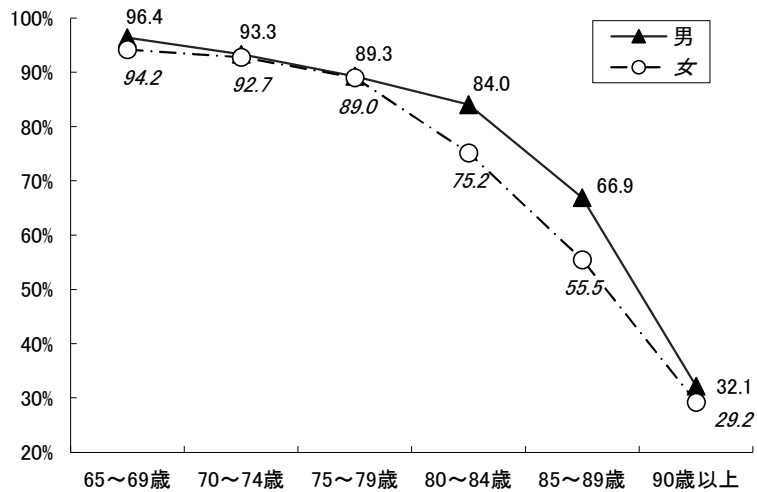
【視力】(日常生活に支障はない)

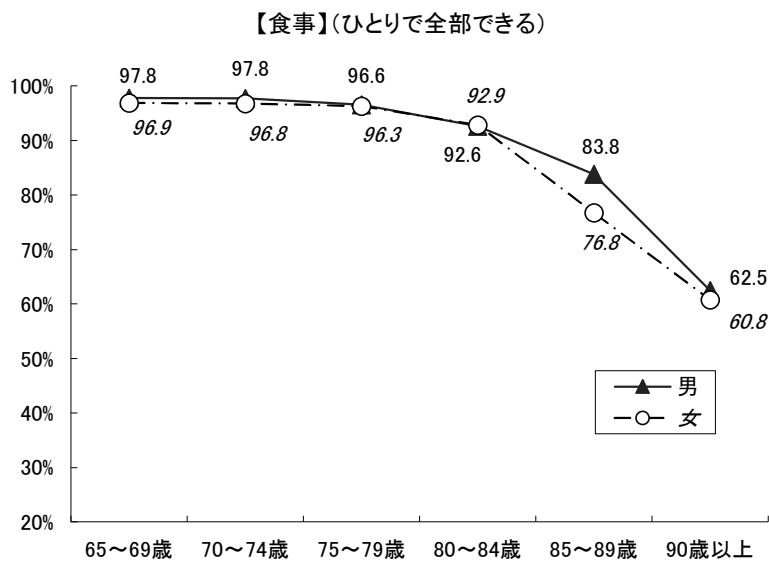
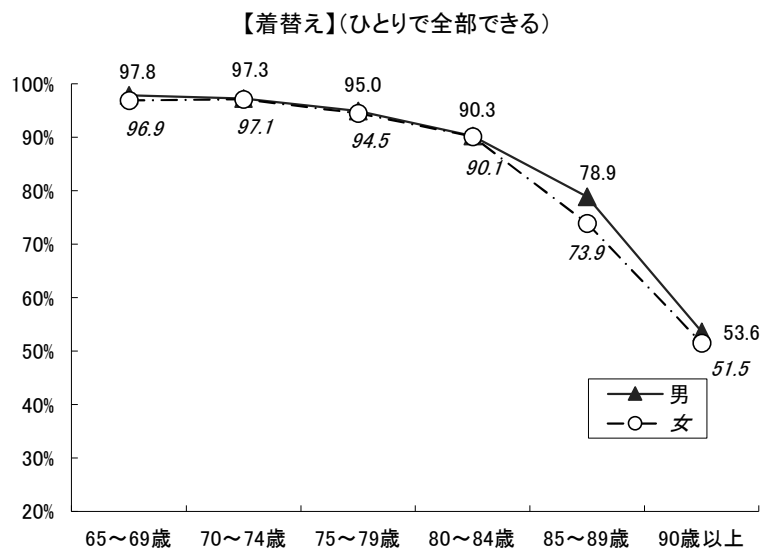
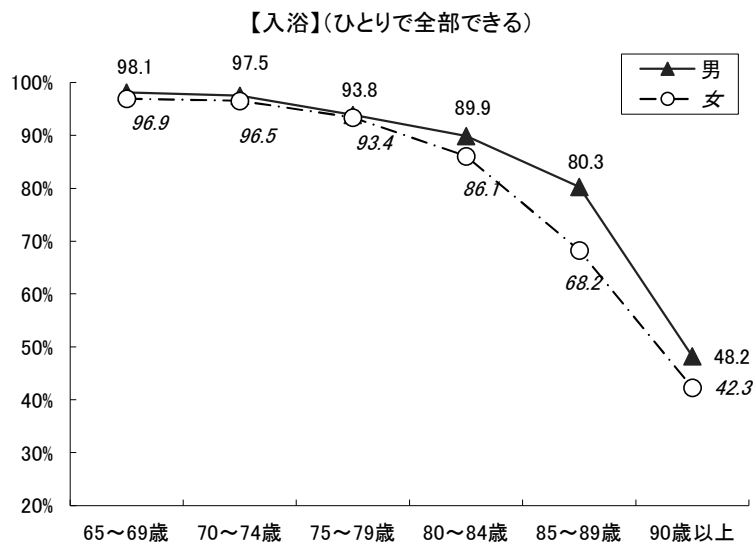


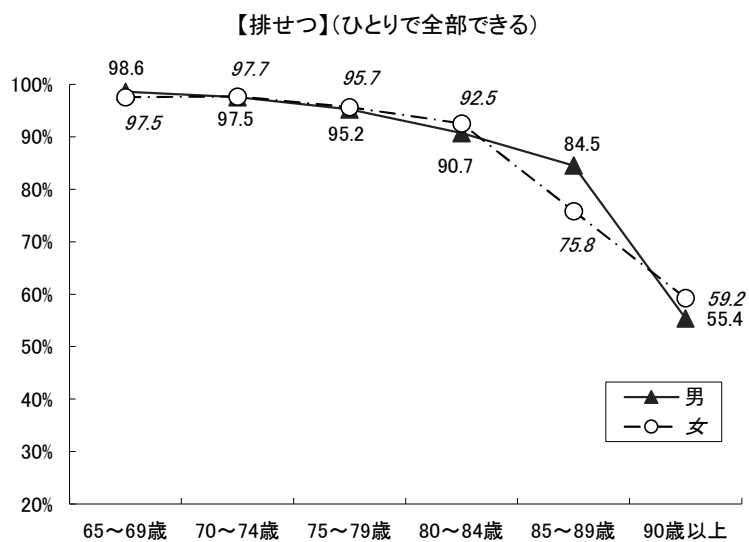
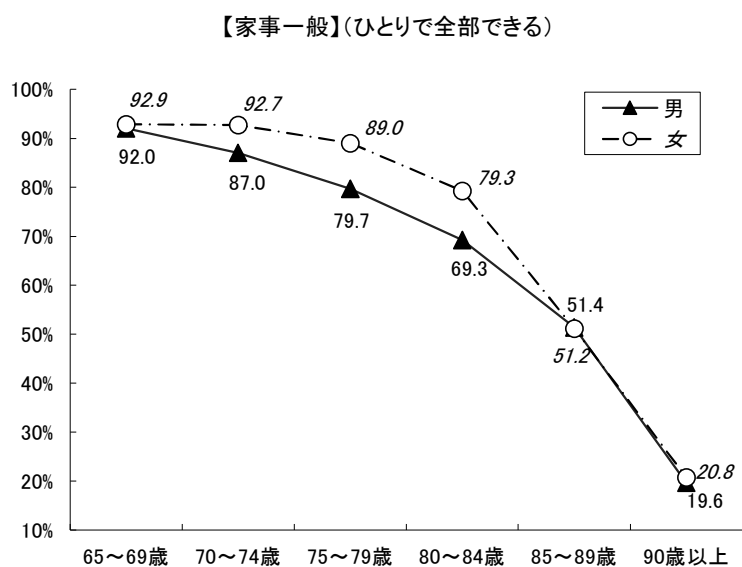
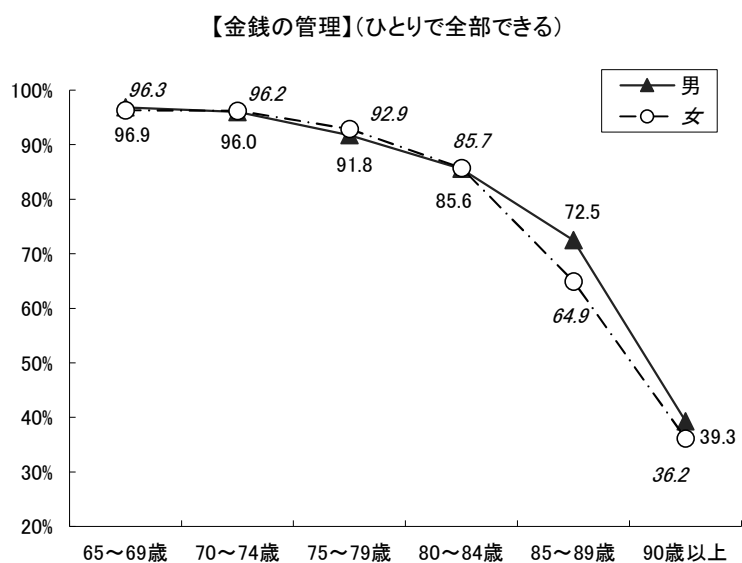
【意思伝達】(日常生活に支障はない)



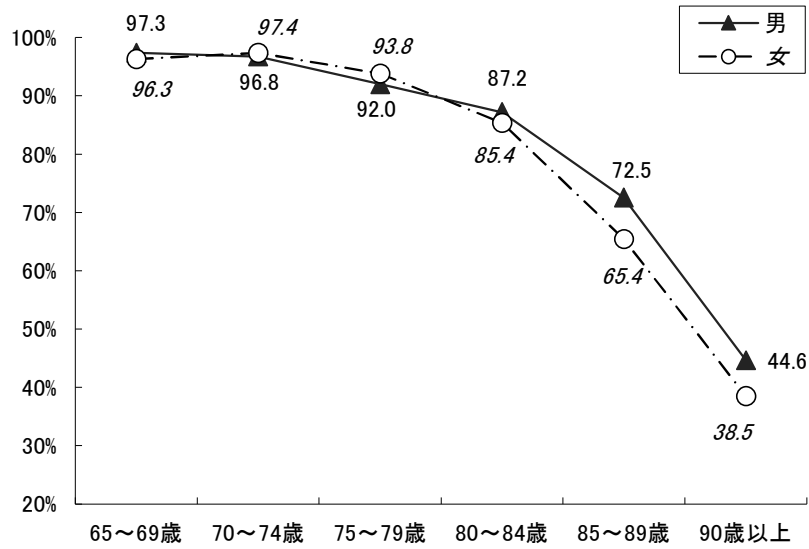
【歩行】(ひとりで全部できる)



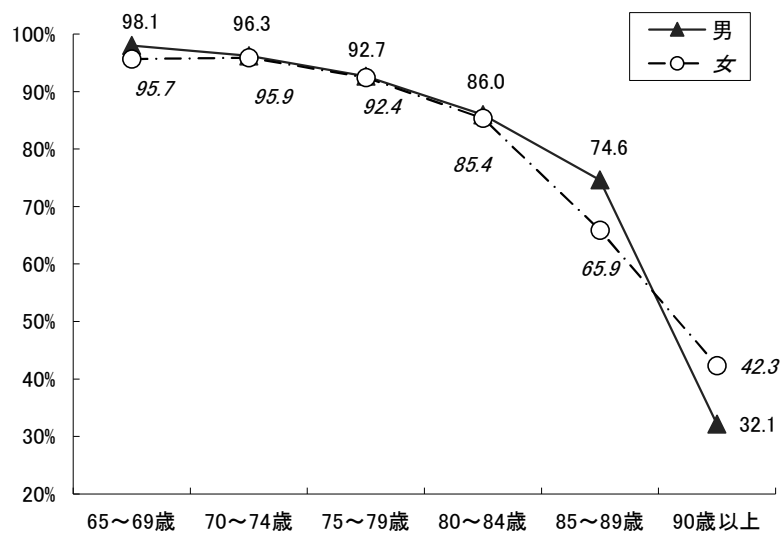




【薬の管理】(ひとりで全部できる)



【電話の利用】(ひとりで全部できる)



(4) 日常生活動作（ADL）（総合）

日常生活動作（ADL）を総合的にみるため、下記の表 3-5 の段階に分けて聞いたところ、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」自立した人の割合が 84.4%で最も高くなっている。（図 3-11）

図 3-11 日常生活動作（ADL）（総合）一過去調査との比較

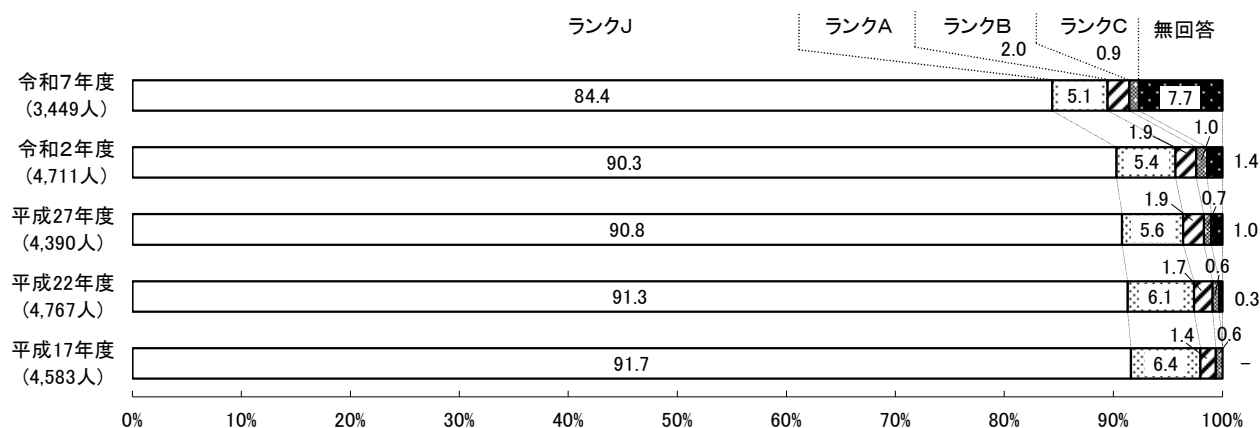


表 3-5 日常生活動作（総合）

ランクJ	生活自立	①日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる (1) 公共交通機関を利用してひとりで外出できる (2) 隣近所へならひとりで外出できる
ランクA	準寝たきり	②屋内での生活はほぼ自分でできるが、外出するには介助が必要である (3) 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する (4) 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
ランクB	寝たきり	③屋内での生活は部分的に介助が必要であり、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる (5) 自分で車椅子などに座り、食事・排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる (6) 介助により車椅子などに座り、食事・排せつは介助が必要である
ランクC		④食事、着替え、排せつの全てで全面的な介助が必要であり、1日中ベッドの上で過ごす (7) 自力で寝返りをうてる (8) 自力で寝返りをうてない

(注) ランクの区分は「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」（厚生労働省）による。

(5) 日常生活動作（ADL）（総合）一性・年齢階級別

「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」割合は、85歳以上では男性 56.1%、女性 50.1%

日常生活動作（ADL）（総合）を性・年齢階級別にみると、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」割合は、男女ともに年齢階級が上がるにつれて低くなっている（男性 95.4%～56.1%、女性 95.1%～50.1%）。

また、「公共交通機関を利用してひとりで外出できる」割合は、85歳以上で、男性 45.5%、女性 36.4%と男性の方が 9.1 ポイント高くなっている。（表 3-6）

表 3-6 日常生活動作（ADL）（総合）一性・年齢階級別

		総数	日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる	公共交通機関を利用してひとりで外出できる	隣近所へならひとりで外出できる	屋内での生活はほぼ自分でできるが、外出するには介助が必要である	介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている	屋内での生活は部分的に介助が必要であり、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる	自分で椅子などに座り、食事・排せつは介助が必要である	必要であり、1日中ベッドの上で過ごす	自力で寝返りをうてる	自力で寝返りをうてない	無回答		
総数		100.0 (3,449)	84.4	78.8	5.6	5.1	3.0	2.0	2.0	1.3	0.7	0.9	0.2	0.6	7.7	
性・年齢階級別	男		100.0 (1,708)	86.9	82.6	4.3	3.8	2.4	1.4	1.2	0.8	0.4	0.2	0.1	0.1	7.8
		65～69歳	100.0 (414)	95.4	94.7	0.7	0.7	0.5	0.2	－	－	－	0.2	0.2	－	3.6
		70～74歳	100.0 (401)	93.0	89.8	3.2	1.0	0.2	0.7	0.2	－	0.2	－	－	－	5.7
		75～79歳	100.0 (438)	89.5	84.9	4.6	3.2	2.3	0.9	0.7	0.5	0.2	－	－	－	6.6
		80～84歳	100.0 (257)	82.9	76.3	6.6	3.9	1.6	2.3	1.9	1.6	0.4	0.4	－	0.4	10.9
		85歳以上	100.0 (198)	56.1	45.5	10.6	17.2	12.1	5.1	6.1	4.0	2.0	1.0	0.5	0.5	19.7
	女		100.0 (1,741)	82.0	75.1	6.9	6.3	3.7	2.6	2.8	1.8	1.0	1.5	0.3	1.1	7.5
		65～69歳	100.0 (325)	95.1	92.6	2.5	0.3	－	0.3	0.3	0.3	－	－	－	－	4.3
		70～74歳	100.0 (344)	93.6	90.4	3.2	1.2	0.3	0.9	0.9	0.9	－	0.3	－	0.3	4.1
		75～79歳	100.0 (437)	89.2	84.4	4.8	3.7	2.7	0.9	0.2	－	0.2	0.5	－	0.5	6.4
		80～84歳	100.0 (294)	79.9	68.7	11.2	7.8	4.8	3.1	1.0	1.0	－	1.7	0.3	1.4	9.5
		85歳以上	100.0 (341)	50.1	36.4	13.8	19.4	10.9	8.5	11.7	7.0	4.7	5.3	1.5	3.8	13.5

6 動作能力類型

調査対象者の動作能力について、下記の表 3-7 のとおり類型分けを行った。

「障害のない高齢者」の割合が 40.7%で最も高く、次いで「軽い障害のある高齢者」が 30.3%、「比較的重い障害のある高齢者」が 11.4%、「寝たきりなど的高齢者」が 7.9%となっている。(表 3-8)

表 3-7 動作能力類型の条件

		「日常生活動作（総合）」 (P48、表 3-5)	「日常生活動作」(ADL) (P41、表 3-4)
生活自立の 高齢者	障害のない高齢者	ランク J	すべての選択肢が 1 (ひとりで全部できる 又は日常生活に支障はない) に該当
	軽い障害のある高齢者		B 欄に該当がなく A 欄に 1 つでも 1 以外に該当
	比較的重い障害のある高齢者		B 欄に 1 つでも該当
寝たきりなどの 高齢者	寝たきりに近い高齢者	ランク A	
	寝たきり高齢者	ランク B 又は ランク C	

表 3-8 動作能力類型－過去調査との比較

	総 数	高 寝 た き り な ど の 高 齢 者	寝 た き り 高 齢 者	高 寝 た き り に 近 い 高 齢 者	比 較 的 重 い 障 害 の あ る 高 齢 者	高 軽 い 障 害 の あ る 高 齢 者	障 害 の な い 高 齢 者	無 回 答
総数	100.0 (3,449)	7.9	2.9	5.1	11.4	30.3	40.7	9.7
令和2年度	100.0 (4,711)	8.4	2.9	5.4	14.0	28.6	43.3	5.8
平成27年度	100.0 (4,390)	8.2	2.6	5.6	8.1	20.7	60.7	2.3
平成22年度	100.0 (4,767)	8.4	2.3	6.1	8.7	21.9	60.2	0.7
【参考】								
平成17年度	100.0 (4,583)	8.3	1.9	6.4	2.0	17.7	72.0	－
平成12年度	100.0 (5,086)	6.2	2.2	4.0	5.5	13.9	74.4	－
平成7年度	100.0 (8,686)	3.5	1.7	1.9	3.4	19.0	74.1	－
平成2年度	100.0 (8,715)	3.6	1.4	2.2	2.7	18.0	75.7	－
昭和60年度	100.0 (8,992)	3.6	1.5	2.1	2.1	22.1	72.2	－

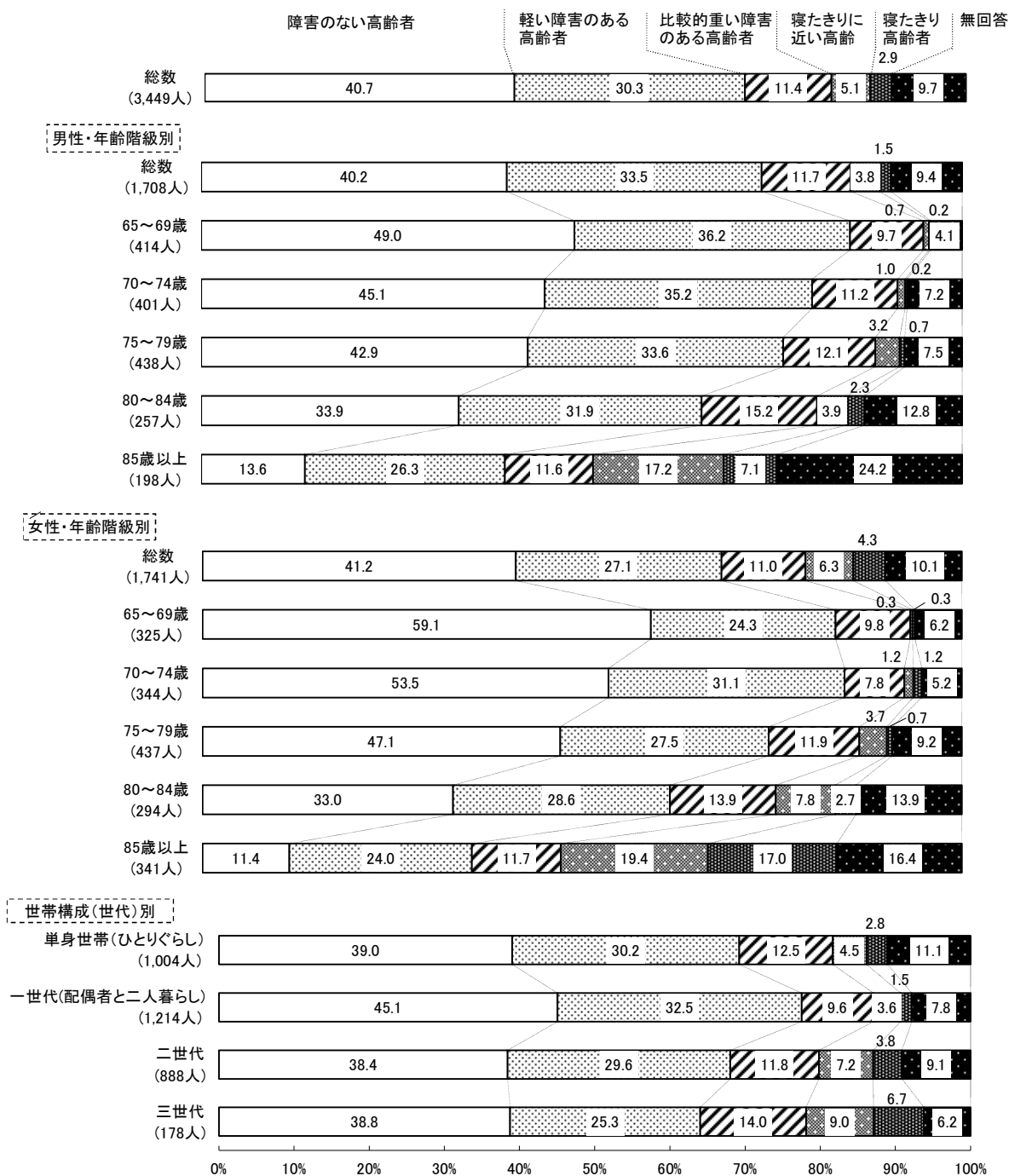
(注) 平成 17 年度調査までは、「日常生活動作 (ADL)」(P41) の選択肢の表現が一部異なっており、厳密に比較を行うことはできないため、参考値である。

(1) 動作能力類型一性・年齢階級、世帯構成（世代）別

「障害のない高齢者」の割合は、65～69歳では男性 49.0%、女性 59.1%で、年齢階級が上がるとともに減少

動作能力類型を性・年齢階級別にみると、「障害のない高齢者」の割合は、65～69歳では男性 49.0%、女性 59.1%となっているが、年齢が上がるとともに減少し、85歳以上では男性 13.6%、女性 11.4%まで減少している。（図 3-12）

図 3-12 動作能力類型一性・年齢階級、世帯構成（世代）別



7 傷病等の状況

(1) 現在かかっている傷病の有無と傷病名〔複数回答〕

現在、何らかの傷病にかかっている人の割合は 85.9%

現在、何らかの傷病にかかっているか聞いたところ、「現在傷病にかかっている」人の割合は 85.9%となっている。また、現在かかっている傷病名をみると、「高血圧症」の割合が 44.7%で最も高く、次いで「歯・口の病気（むし歯や歯周病を含む）」28.7%、「脂質異常症（高コレステロール血症等）」が 22.6%となっている。一方、「現在傷病にかかっていない」人は 11.3%となっている。（図 3-13、図 3-14）

図 3-13 現在かかっている傷病の有無

図 3-14 現在かかっている傷病名〔複数回答〕

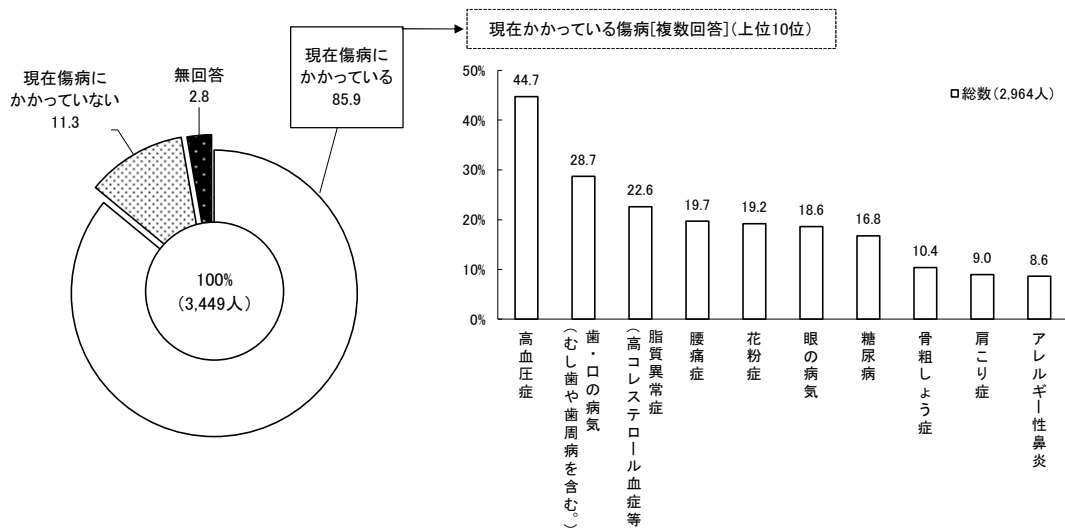


表 3-9 現在かかっている傷病〔複数回答〕一性、年齢階級、動作能力類型別

	総数	内分泌・代謝障害	糖尿病	肥満症	脂質異常症（高コレステロール血症等）	甲状腺の病気	精神・神経	病気のうつ病やその他のこころの病気	認知症	パーキンソン病	その他の神経の病気（神経痛・麻痺等）	眼の病気	耳の病気	循環器系	高血圧症	脳卒中（脳出血、脳梗塞等）	狭心症・心筋梗塞	その他の循環器系の病気	呼吸器系	上気道炎（かぜ）	アレルギー性鼻炎	慢性閉塞性肺疾患（COPD）	喘息	花粉症	肺炎	その他の呼吸器系の病気
総数	100.0 (3,449)	34.1	14.4	4.2	19.4	3.3	8.9	2.1	3.6	1.0	3.0	15.9	5.2	46.2	38.4	2.9	5.4	5.7	25.0	0.5	7.4	0.7	3.5	16.5	0.5	2.3
性別																										
男	100.0 (1,708)	34.1	19.5	4.4	16.0	1.5	7.6	1.4	2.4	1.1	3.3	16.2	5.6	51.1	41.5	3.6	7.7	6.4	24.9	0.5	6.7	0.9	3.0	17.0	0.5	2.5
女	100.0 (1,741)	34.1	9.4	3.9	22.8	5.0	10.2	2.8	4.8	1.0	2.6	15.7	4.7	41.4	35.4	2.3	3.1	5.1	25.0	0.5	8.0	0.5	4.0	16.0	0.4	2.1
年齢階級別																										
65～69歳	100.0 (739)	33.8	12.3	7.2	22.2	3.4	6.9	3.5	0.5	0.7	2.7	13.0	2.2	36.8	31.4	1.6	3.4	3.9	31.0	0.1	9.6	0.7	3.0	23.1	0.1	2.2
70～74歳	100.0 (745)	34.2	13.7	5.2	20.4	3.0	5.4	1.6	0.5	0.7	3.4	13.4	2.8	41.3	36.2	2.8	4.0	2.3	27.7	0.5	7.4	0.5	4.6	18.9	0.5	2.0
75～79歳	100.0 (875)	38.7	16.3	2.9	21.9	4.5	6.3	1.3	1.8	0.8	2.9	18.3	5.8	47.3	39.8	3.1	5.1	6.7	25.3	0.6	7.3	0.7	3.4	16.9	0.6	2.3
80～84歳	100.0 (551)	35.0	17.4	3.4	18.0	2.2	8.0	2.4	3.1	1.1	2.2	17.6	8.5	54.1	43.9	2.9	8.0	7.3	20.0	0.5	7.3	0.4	2.7	12.2	0.7	2.2
85歳以上	100.0 (539)	25.8	12.1	1.5	11.7	2.8	21.7	1.9	15.6	2.4	3.7	18.0	8.0	55.8	43.4	4.6	7.8	9.8	17.6	0.7	4.6	1.3	3.5	7.8	0.4	3.2
動作能力類型別																										
寝たきり高齢者	100.0 (99)	21.2	14.1	1.0	8.1	2.0	58.6	7.1	44.4	10.1	7.1	9.1	4.0	48.5	28.3	15.2	5.1	11.1	12.1	-	1.0	2.0	5.1	1.0	1.0	3.0
寝たきりに近い高齢者	100.0 (175)	28.0	17.1	4.0	10.3	1.1	40.0	5.7	26.9	3.4	8.0	21.7	12.0	61.7	45.1	14.3	9.1	10.3	22.3	1.1	7.4	1.7	4.6	10.9	1.1	4.0
比較的重い障害のある高齢者	100.0 (392)	41.8	18.4	6.4	22.7	4.3	15.8	4.8	4.6	1.8	5.9	35.7	15.8	53.1	43.1	3.6	6.9	8.2	32.4	1.3	11.5	1.5	4.1	21.7	0.5	2.3
軽い障害のある高齢者	100.0 (1,044)	37.7	15.7	5.0	21.6	3.4	3.7	1.1	0.7	0.4	1.5	17.7	5.1	45.4	40.4	1.2	4.4	4.9	27.4	0.4	8.3	0.7	3.7	18.4	0.2	2.8
障害のない高齢者	100.0 (1,404)	32.3	12.1	3.2	20.0	3.4	3.1	0.9	0.1	0.4	1.8	8.5	1.0	42.2	36.0	1.1	4.4	4.4	24.0	0.3	6.6	0.3	3.0	16.7	0.4	1.6

ア 現在かかっている傷病〔複数回答〕一性、年齢階級、動作能力類型別

現在かかっている傷病は、男女とも、「高血圧症」の割合が最も高く、3割を超えている

現在かかっている傷病を性別でみると、男性では、「高血圧症」の割合が41.5%で最も高く、次いで「歯・口の病気（むし歯や歯周病を含む）」26.1%、「糖尿病」19.5%、「腰痛症」17.2%となっている。女性では、「高血圧症」の割合が35.4%で最も高く、次いで「歯・口の病気（むし歯や歯周病を含む）」23.3%、「脂質異常症（高コレステロール血症）」22.8%「骨粗しょう症」16.9%となっている。

年齢階級別にみると、いずれの階級においても「高血圧症」の割合が最も高くなっている（31.4%～43.9%）。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者は、「認知症」の割合が44.4%と最も高くなっている。寝たきりに近い高齢者、比較的重い障害のある高齢者、軽い障害のある高齢者、障害のない高齢者は、いずれも「高血圧症」の割合が最も高くなっている（36.0%～45.1%）。（表3-9）

消化器系	胃・十二指腸の病気	肝臓・胆のうの病気	その他の消化器系の病気	歯・口の病気 （むし歯や歯周病を含む）	皮膚	アトピー性皮膚炎	その他の皮膚の病気	筋骨格系	痛風	関節リウマチ	関節症	肩こり症	腰痛症	骨粗しょう症	尿路生殖器系	腎臓の病気	前立腺肥大症	閉経期または閉経後障害 （更年期障害等）	損傷	骨折	骨折以外のけが・やけど	貧血・血液の病気	悪性新生物（がん）	その他	不明	特になし	無回答
8.1	3.2	1.9	3.5	24.7	7.9	1.5	6.5	32.5	3.1	1.9	5.2	7.7	17.0	8.9	10.0	3.9	6.2	0.4	3.5	2.3	1.2	1.9	3.5	3.6	0.5	11.3	2.8
9.3	3.8	2.4	3.5	26.1	8.7	1.9	7.0	27.5	5.7	1.2	3.7	6.2	17.2	0.8	16.2	4.6	12.5	0.1	2.5	1.5	1.0	1.8	4.5	3.2	0.4	10.0	3.0
7.0	2.5	1.5	3.4	23.3	7.1	1.1	6.0	37.4	0.5	2.5	6.7	9.2	16.8	16.9	4.0	3.2	0.1	0.7	4.4	3.2	1.4	2.1	2.4	4.0	0.6	12.6	2.5
6.4	1.8	2.0	3.1	18.7	8.0	2.0	6.2	28.7	4.2	1.5	5.3	6.8	13.7	5.3	6.4	2.3	3.7	0.7	1.4	0.5	1.1	1.4	3.2	3.2	0.3	14.1	2.2
7.2	3.1	1.6	3.0	25.4	7.1	1.3	5.8	31.1	4.2	2.1	5.0	7.9	15.2	6.2	8.3	3.2	5.6	-	3.0	1.9	1.1	1.3	3.0	3.1	0.4	13.6	2.3
8.0	3.7	1.7	3.1	25.6	7.7	1.7	6.2	33.6	2.5	1.5	4.1	9.5	19.1	9.3	11.5	4.3	7.8	0.3	2.4	1.6	0.8	1.4	4.0	2.9	0.3	10.9	2.4
9.4	4.0	2.9	3.1	26.9	6.7	1.3	5.4	33.2	2.0	2.2	6.4	5.8	16.7	11.1	11.4	3.8	7.4	0.5	5.1	3.6	1.5	2.4	4.2	4.5	0.4	9.8	2.7
10.4	3.5	1.7	5.6	28.2	10.6	1.1	9.5	37.3	2.2	2.2	6.3	7.8	20.8	15.0	13.5	6.3	6.7	0.7	7.1	5.2	2.0	3.9	2.8	4.8	1.1	6.7	4.8
11.1	2.0	4.0	5.1	18.2	11.1	-	11.1	24.2	1.0	4.0	4.0	-	8.1	14.1	7.1	3.0	3.0	1.0	10.1	6.1	4.0	3.0	3.0	8.1	1.0	2.0	2.0
12.0	4.0	2.9	5.7	26.9	12.6	2.3	10.3	41.1	2.9	2.3	6.9	8.6	22.9	21.7	14.9	6.9	7.4	1.7	10.9	9.1	2.3	5.7	5.7	5.1	1.1	2.9	0.6
11.0	5.9	2.8	3.3	36.5	12.2	2.6	10.2	45.4	4.8	1.8	6.9	15.3	25.0	9.9	15.6	5.6	10.5	0.5	4.1	3.1	1.0	3.6	4.1	5.4	0.8	4.1	0.5
8.2	2.9	1.7	4.1	26.1	7.9	1.0	6.9	35.0	3.7	1.3	6.7	7.3	19.0	8.4	10.2	4.2	6.3	0.3	1.7	0.8	1.0	1.8	3.2	3.4	0.5	10.2	1.1
6.1	2.6	1.4	2.2	19.4	5.6	1.6	4.1	24.9	2.7	1.5	3.3	5.8	11.6	5.8	7.8	2.6	5.1	0.4	2.1	1.3	0.9	0.8	3.2	3.1	0.2	17.4	2.1

(2) 通院・往診（訪問診療）の有無一性、年齢階級、動作能力類型別

何らかの傷病にかかっている人のうち、「通院している」割合は 83.5%

何らかの傷病にかかっている人（2,964人）に、通院しているかどうか聞いたところ「通院している」割合が 83.5%、「往診（訪問診療）してもらっている」が 3.5%、「通院・往診（訪問診療）両方とも利用していない」が 8.1%となっている。

動作能力類型別にみると、寝たきりの高齢者は、「往診（訪問診療）してもらっている」割合が 53.7%で最も高くなっている。（図 3-15）

図 3-15 通院・往診（訪問診療）の有無一性、年齢階級、動作能力類型別



(注) 通院と往診（訪問診療）の両方を利用している場合は、より頻度の多い方を回答。

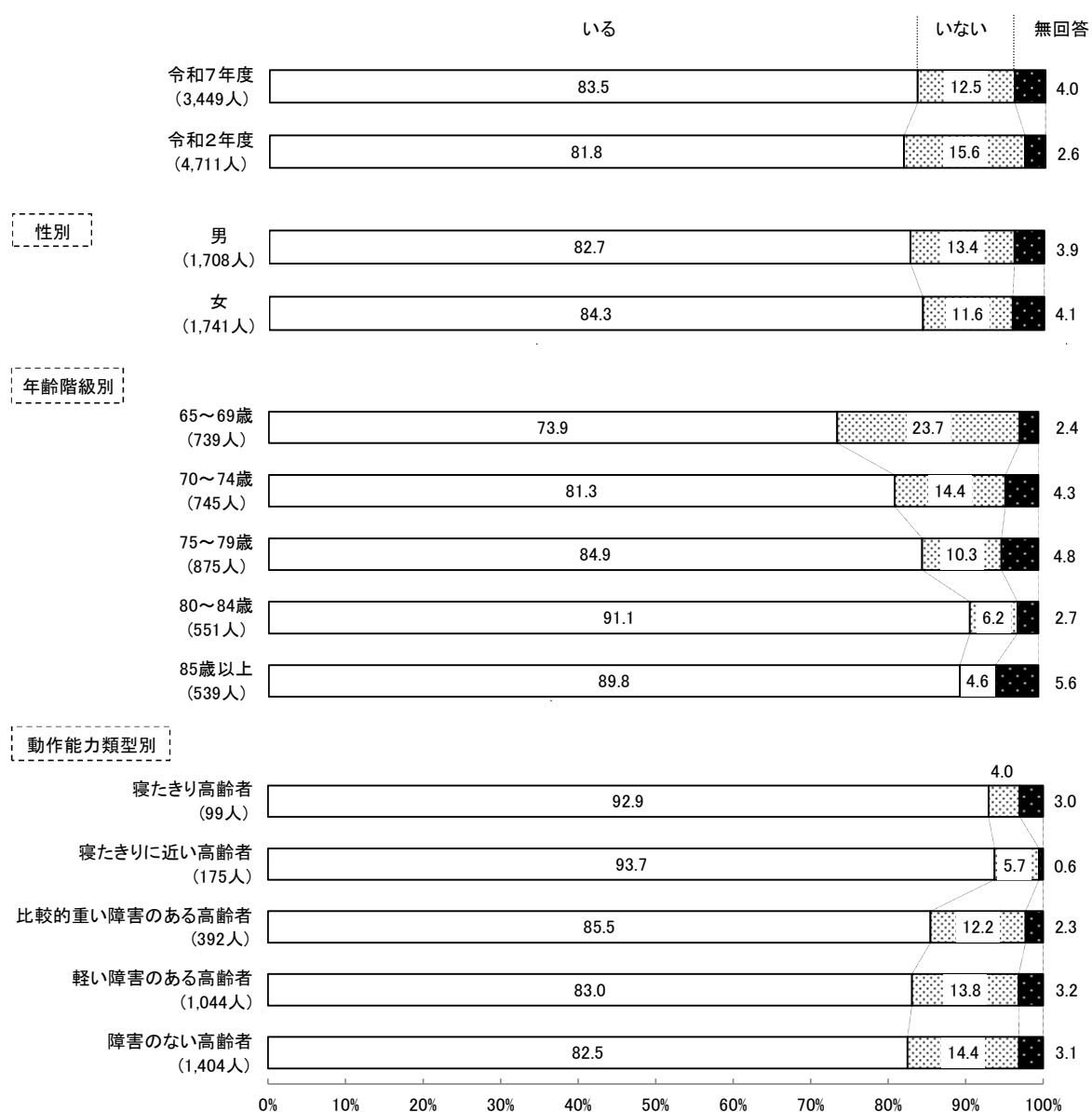
(3) かかりつけ医の有無一性、年齢階級、動作能力類型別

かかりつけ医が「いる」人の割合は 83.5%で、「いない」人の割合は 12.5%

かかりつけ医の有無を聞いたところ、「いる」人の割合は 83.5%で、「いない」は 12.5%であった。

年齢階級別にみると、80～84 歳において「いる」人の割合は 91.1%で最も高くなっている。(図 3-16)

図 3-16 かかりつけ医の有無一性、年齢階級、動作能力類型別



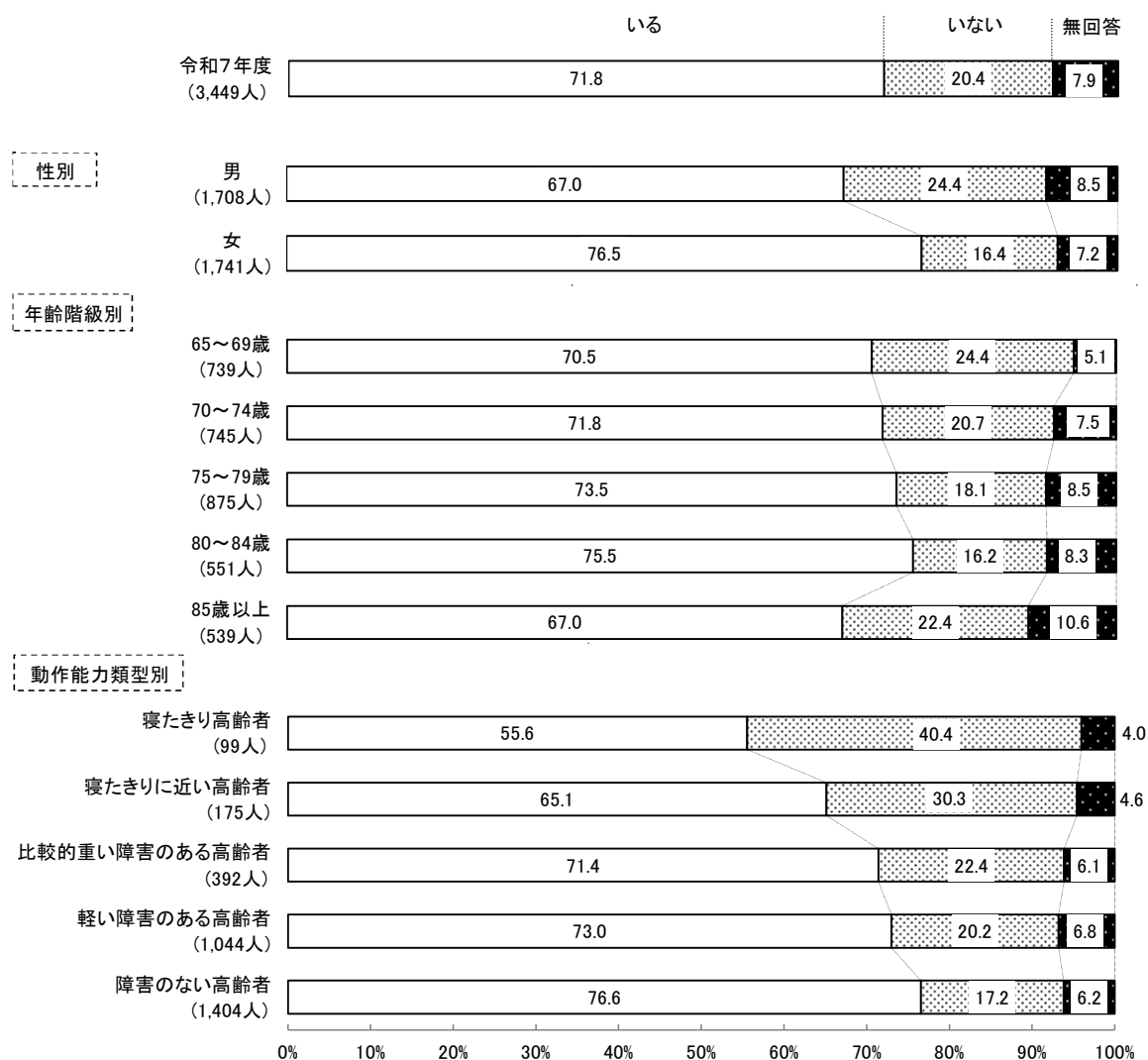
(4) かかりつけ歯科医の有無一性、年齢階級、動作能力類型別

かかりつけ歯科医が「いる」人の割合は71.8%で、「いない」人の割合は20.4%

かかりつけ歯科医の有無を聞いたところ、「いる」人の割合は71.8%で、「いない」は20.4%であった。

年齢階級別にみると、80～84歳において「いる」人の割合は75.5%で最も高くなっている。(図3-17)

図3-17 かかりつけ歯科医の有無一性、年齢階級、動作能力類型別

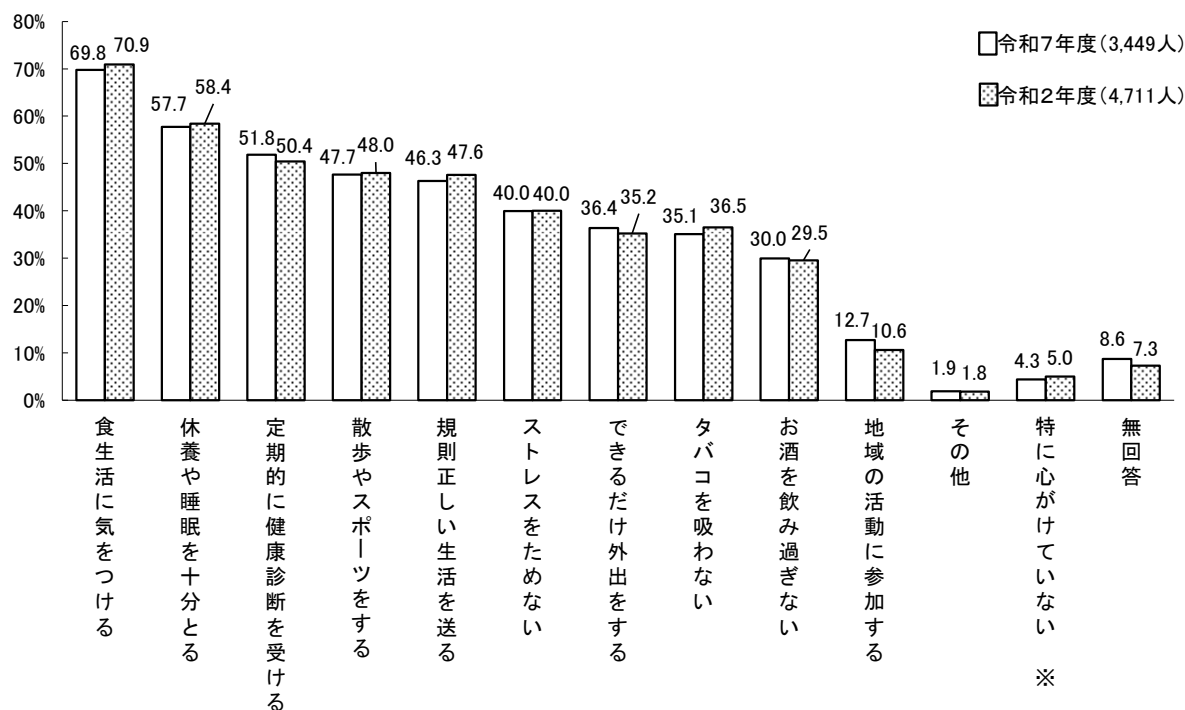


8 健康のために心がけていること

健康のために心がけていることは、「食生活に気をつける」の割合が最も高く、69.8%

健康の維持増進のために心がけていることを聞いたところ、「食生活に気をつける」の割合が69.8%で最も高くなっている。(図3-18)

図3-18 健康のために心がけていること〔複数回答〕



(注1) 本設問は、令和2年度調査では設問文を「どのようなことに気をつけていますか」としていた。

(注2) ※は、令和2年度調査では「特に気をつけていない」としていた。

(1) 健康のために心がけていること〔複数回答〕一性・年齢階級別

男女ともに、年齢階級に関わらず「食生活に気をつける」の割合が最も高い

健康のために心がけていることについて、性別でみると、男女ともに「食生活に気をつける」の割合が最も高く、男性 68.1%、女性 71.4%となっている。

「タバコを吸わない」の割合は、女性が 26.9%であるのに対し、男性は 43.4%で、16.5 ポイントの差がある。また、「お酒を飲み過ぎない」の割合は、女性が 22.1%であるのに対し、男性が 38.0%で、15.9 ポイントの差がある。(表 3-10)

表 3-10 健康のために心がけていること〔複数回答〕一性・年齢階級別

		総 数	食 生 活 に 気 を つ け る	休 養 や 睡 眠 を 十 分 と る	ス ト レ ス を た め な い	規 則 正 し い 生 活 を 送 る	散 歩 や ス ポ ー ツ を す る	で き る だ け 外 出 を す る	地 域 の 活 動 に 参 加 す る	定 期 的 に 健 康 診 断 を 受 け る	お 酒 を 飲 み 過 ぎ な い	タ バ コ を 吸 わ な い	そ の 他	特 に 心 が け て い な い	無 回 答	
総数		100.0 (3,449)	69.8	57.7	40.0	46.3	47.7	36.4	12.7	51.8	30.0	35.1	1.9	4.3	8.6	
性・年 齢階級別	男	100.0 (1,708)	<u>68.1</u>	59.0	38.7	44.6	52.0	34.1	10.5	52.8	<u>38.0</u>	<u>43.4</u>	1.3	4.6	6.4	
		65～74歳	100.0 (815)	70.8	61.5	45.5	46.4	54.1	33.5	8.6	54.0	37.3	41.8	1.0	4.7	3.2
		75～84歳	100.0 (695)	67.3	59.6	35.3	43.3	54.7	34.0	14.0	53.8	39.4	46.5	1.4	4.6	5.6
		85歳以上	100.0 (198)	59.6	47.0	22.7	41.4	33.8	36.9	6.6	44.4	35.9	39.4	2.0	4.5	22.2
	女	100.0 (1,741)	<u>71.4</u>	56.5	41.2	48.1	43.5	38.6	14.8	50.9	<u>22.1</u>	<u>26.9</u>	2.5	4.1	10.9	
		65～74歳	100.0 (669)	76.2	62.3	47.8	51.1	47.4	35.9	12.7	52.2	26.0	30.2	2.2	5.1	3.7
		75～84歳	100.0 (731)	76.5	58.7	40.5	51.8	50.5	46.2	18.1	55.1	23.3	28.2	2.1	2.9	7.8
		85歳以上	100.0 (341)	51.0	40.2	29.6	34.0	20.8	27.6	12.0	39.3	11.7	17.6	3.8	4.7	31.4

9 終末期に受けたい医療

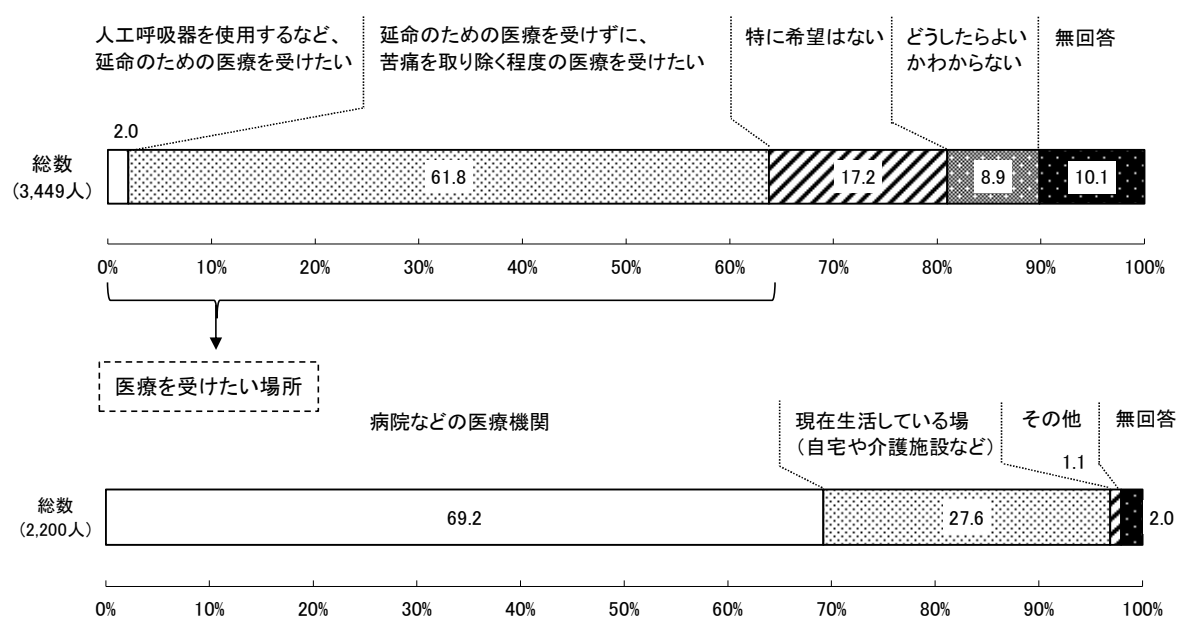
(1) 終末期に受けたい医療の内容、医療を受けたい場所

終末期は、「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が最も高く、61.8%

末期のがんや重い病気により、体調が回復しないで自分の死が近いと感じた場合、どのような医療を受けたいか聞いたところ、「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が61.8%で最も高く、次いで「特に希望はない」が17.2%となっている。

また、「延命のための医療を受けたい」又は「苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」と回答した人(2,200人)に医療を受けたい場所を聞いたところ、「病院などの医療機関」の割合が69.2%で最も高くなっている。(図3-19)

図3-19 終末期に受けたい医療の内容、医療を受けたい場所ー令和2年度調査との比較



ア 終末期に受けたい医療の内容

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期の医療について「詳しく話し合っている」、「一応話し合っている」及び「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」人では、「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が5割を超えている

終末期に受けたい医療の内容を性別でみると、男女ともに「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が最も高く、男性 59.1%、女性 64.5%となっている。また「人工呼吸器を使用するなど、延命のための医療を受けたい」の割合は、男性 2.9%、女性 1.0%となっている。

終末期の医療についての話し合いの有無別でみると、「詳しく話し合っている」、「一応話し合っている」及び「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」人では「延命のための医療を受けずに、苦痛を取り除く程度の医療を受けたい」の割合が5割を超えている（59.6%、73.1%、68.8%）。（表 3-11）

表 3-11 終末期に受けたい医療の内容

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総数	延命のための医療を受けたい、人工呼吸器を使用するなど	苦痛を取り除く程度の医療を受けたい	特に希望はない	どうしたらよいかわからない	無回答
総数		100.0 (3,449)	2.0	61.8	17.2	8.9	10.1
性別	男	100.0 (1,708)	2.9	59.1	21.0	9.0	8.0
	女	100.0 (1,741)	1.0	64.5	13.4	8.8	12.2
年齢階級別	65～69歳	100.0 (739)	1.8	67.5	15.8	11.6	3.2
	70～74歳	100.0 (745)	2.6	67.0	15.8	9.9	4.7
	75～79歳	100.0 (875)	2.4	63.2	19.8	8.0	6.6
	80～84歳	100.0 (551)	1.1	61.2	19.6	6.0	12.2
	85歳以上	100.0 (539)	1.7	45.3	14.3	8.2	30.6
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	2.2	62.4	16.9	9.6	8.8
	ひとり暮らし	100.0 (1,004)	1.6	60.5	17.7	10.4	9.9
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	3.0	65.4	15.7	8.5	7.4
	その他	100.0 (119)	—	52.1	21.0	13.4	13.4
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	1.5	62.1	17.6	7.6	11.2
話し合いの有無別	終末期に受けたい医療についての話し合い	100.0 (57)	3.5	59.6	14.0	5.3	17.5
	詳しく話し合っている	100.0 (755)	1.3	73.1	12.8	2.5	10.2
	一応話し合っている	100.0 (1,872)	2.5	68.8	16.3	10.7	1.7
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (442)	1.1	45.5	34.4	15.8	3.2

イ 終末期に医療を受けたい場所

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療の内容、

終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期に医療を受けたい場所を性別でみると、男女ともに「病院などの医療機関」の割合が最も高く、男性 71.7%、女性 67.0%となっている。

終末期に受けたい医療の内容別でみると、人工呼吸器を使用するなど、延命のための医療を受けたい人では「病院などの医療機関」の割合が、82.4%となっている。(表 3-12)

表 3-12 終末期に医療を受けたい場所

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療の内容、

終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総 数	病 院 な ど の 医 療 機 関	現 在 生 活 し て 居 る 場 所 (自 宅 や 介 護 施 設 な ど)	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (2,200)	69.2	27.6	1.1	2.0
性 別	男	100.0 (1,059)	<u>71.7</u>	26.3	1.0	1.0
	女	100.0 (1,141)	<u>67.0</u>	28.9	1.1	3.0
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (512)	72.9	25.2	1.0	1.0
	70～74歳	100.0 (518)	69.1	27.8	1.2	1.9
	75～79歳	100.0 (574)	72.1	24.7	1.6	1.6
	80～84歳	100.0 (343)	64.1	33.2	0.6	2.0
	85歳以上	100.0 (253)	62.5	31.2	0.8	5.5
世 帯 類 型 別	高齢者のみの世帯	100.0 (1,426)	69.2	28.1	0.8	1.9
	ひとり暮らし	100.0 (623)	69.0	28.6	0.6	1.8
	配偶者と二人暮らし	100.0 (741)	69.0	28.1	0.9	2.0
	その他	100.0 (62)	74.2	22.6	1.6	1.6
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (724)	69.9	26.7	1.7	1.8
の 内 容 別	人工呼吸器を使用するなど、 延命のための医療を受けたい	100.0 (68)	<u>82.4</u>	16.2	—	1.5
	延命のための医療を受けずに、 苦痛を取り除く程度の医療を受けたい	100.0 (2,132)	68.8	28.0	1.1	2.1
に 終 末 期 に の 受 け た い 医 療 の 有 無 別	詳しく話し合っている	100.0 (36)	58.3	38.9	2.8	—
	一応話し合っている	100.0 (562)	66.0	30.1	1.6	2.3
	話し合ったことはないが、 今後話し合いたい	100.0 (1,334)	71.5	26.0	0.9	1.6
	話し合ったことはなく、 今後も話し合いたくない	100.0 (206)	66.0	30.6	0.5	2.9

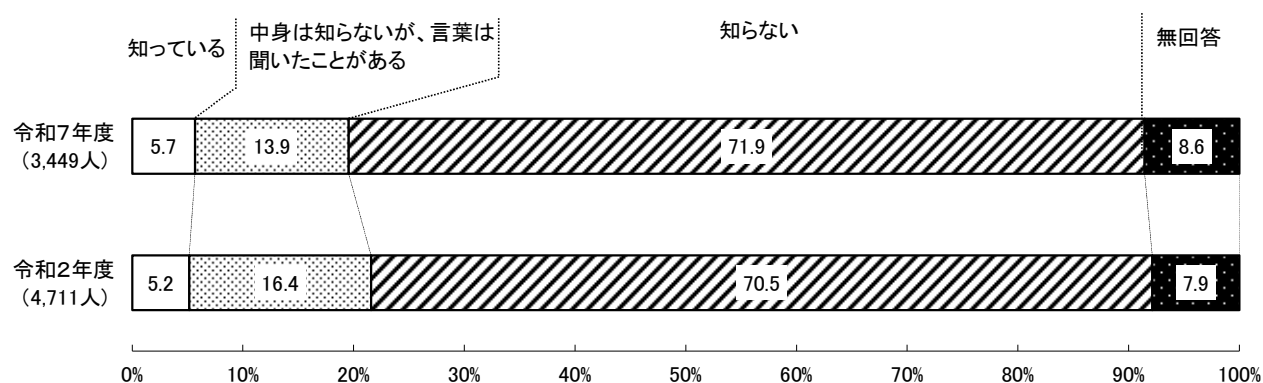
10 アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を「知っている」人の割合は5.7%

「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」又は「人生会議」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」の割合が5.7%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が13.9%となっている。一方、「知らない」の割合は71.9%となっている。（図3-20）

図3-20 アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

ー令和2年度調査との比較



※ アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族や大切な人、医療・介護ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組をいう。

「人生会議」の愛称で呼ばれることもある。

(1) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けた医療についての話し合いの有無別

終末期の医療について詳しく話し合っている人では「知っている」の割合は 26.3%

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度を性別でみると、「知っている」の割合は、男性 4.6%、女性 6.7%となっている。

終末期の医療についての話し合いの有無別でみると詳しく話し合っている人では「知っている」の割合が 26.3%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 10.5%となっている。（表 3-13）

表 3-13 アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けた医療についての話し合いの有無別

		総 数	知 っ て い る	中 身 は 聞 い た こ と が あ る	知 ら な い	無 回 答
総数		100.0 (3,449)	5.7	13.9	71.9	8.6
性別	男	100.0 (1,708)	4.6	12.3	76.9	6.2
	女	100.0 (1,741)	6.7	15.5	67.0	10.9
年齢階級別	65～69歳	100.0 (739)	8.4	12.0	76.5	3.1
	70～74歳	100.0 (745)	5.4	15.3	75.6	3.8
	75～79歳	100.0 (875)	5.5	14.5	74.7	5.3
	80～84歳	100.0 (551)	4.0	17.4	70.2	8.3
	85歳以上	100.0 (539)	4.5	9.8	57.5	28.2
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	5.9	12.6	74.5	7.1
	ひとり暮らし	100.0 (1,004)	6.5	13.5	72.2	7.8
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	5.4	12.0	76.5	6.0
	その他	100.0 (119)	5.0	9.2	74.8	10.9
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	5.2	16.5	67.9	10.4
話し合いの有無別	詳しく話し合っている	100.0 (57)	26.3	10.5	50.9	12.3
	一応話し合っている	100.0 (755)	10.5	19.7	60.9	8.9
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (1,872)	4.3	14.8	80.7	0.2
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (442)	3.2	7.0	89.4	0.5

11 終末期に受けたい医療についての話し合い

自身の人生の最終段階で受けたい医療について、家族や医療関係者等と話し合っているか聞いたところ、「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」を合わせた「話し合っている」割合が23.5%となっている。また、「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」割合は54.3%となっている。（図3-21）

「話し合っている」と回答した人（812人）に話し合った相手と話し合った内容を聞いたところ、話し合った相手では「家族・親族」の割合が94.7%で最も高く、話し合った内容では「延命のための医療を受けたいか」が49.3%で最も高くなっている。（図3-22、図3-23）

また、「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」と回答した人（1,872人）に今後話し合いたい相手と話し合いたい内容を聞いたところ、今後話し合いたい相手では、「話し合っている」と回答した人と同様に「家族・親族」の割合が82.8%で最も高くなっている。今後話し合いたい内容では、「話し合っている」と回答した人とは異なり、「医療・療養を受けたい場所」が33.7%で最も高くなっている。（図3-22、図3-23）

図3-21 終末期に受けたい医療についての話し合いの有無

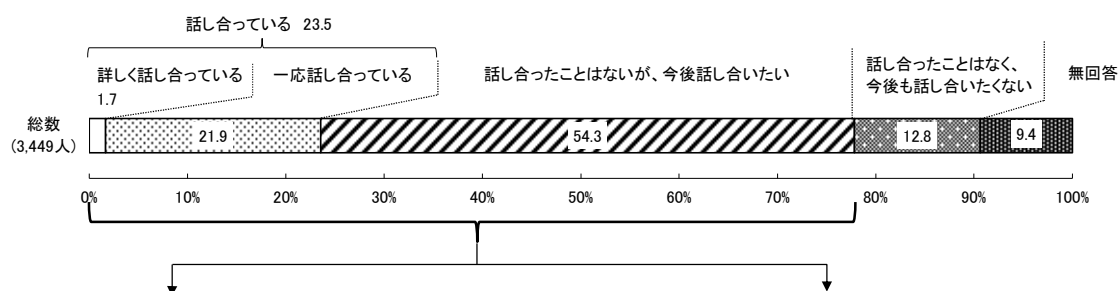


図3-22 話し合った相手・話し合いたい相手 [複数回答]

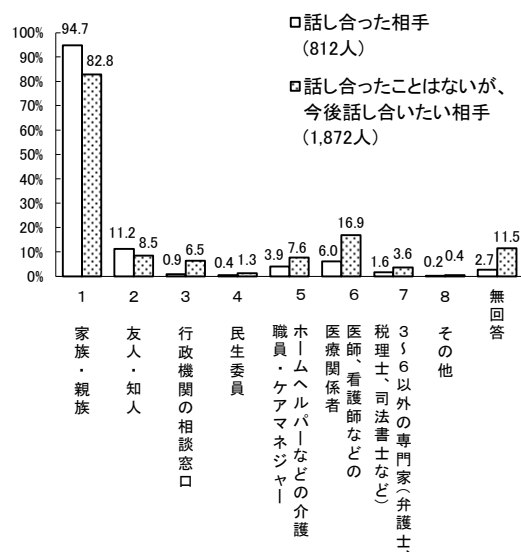
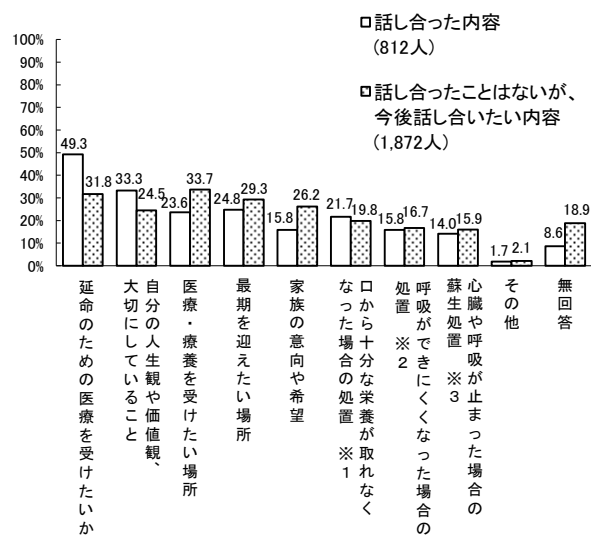


図3-23 話し合った内容・話し合いたい内容 [複数回答]



(注1) ※1の「口から十分な栄養が取れなくなった場合の処置」とは、点滴、経鼻栄養、胃ろうなどを指す。

(注2) ※2の「呼吸ができなくなった場合の処置」とは、気管に管を入れて人工呼吸器につなげるなどを指す。

(注3) ※3の「心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置」とは、心臓マッサージ、電気ショック、人工呼吸などを指す。

(1) 終末期に受けたい医療についての話し合いの有無

一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

終末期に受けたい医療について話し合ったことがあるかを性別でみると、「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」を合わせた「話し合っている」の割合は、男性 21.0%、女性 26.1%となっている。

年齢階級別でみると、85歳以上では「話し合っている」の割合が 29.9%で最も高くなっている。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別でみると、ACPを知っている人では、「話し合っている」の割合が 48.0%となっている。（表 3-14）

表 3-14 終末期に受けたい医療についての話し合いの有無一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

		総数	詳しく話し合っている	一応話し合っている	今後話し合ったことはないが、	今後話し合ったことはなく、	無回答
総数		100.0 (3,449)	1.7	21.9	54.3	12.8	9.4
性別	男	100.0 (1,708)	1.3 21.0	19.6	53.8	16.9	8.4
	女	100.0 (1,741)	2.0 26.1	24.1	54.7	8.8	10.3
年齢階級別	65～69歳	100.0 (739)	1.2 19.5	18.3	61.8	14.1	4.6
	70～74歳	100.0 (745)	1.2 22.4	21.2	58.0	14.5	5.1
	75～79歳	100.0 (875)	2.1 21.9	19.9	56.3	14.2	7.5
	80～84歳	100.0 (551)	1.6 26.9	25.2	50.5	11.4	11.3
	85歳以上	100.0 (539)	2.2 29.9	27.6	39.3	8.0	22.8
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	1.6	22.0	54.3	13.1	9.0
	ひとり暮らし	100.0 (1,004)	1.5	20.1	52.9	15.9	9.6
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	1.7	23.6	56.0	10.3	8.3
	その他	100.0 (119)	1.7	23.5	49.6	15.1	10.1
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	1.8	21.7	55.4	12.2	8.9
認知度別の	知っている	100.0 (196)	7.7 48.0	40.3	40.8	7.1	4.1
	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	100.0 (479)	1.3	31.1	57.8	6.5	3.3
	知らない	100.0 (2,479)	1.2	18.6	61.0	15.9	3.4

(2) 終末期に受けたい医療について「話し合っている」人の状況

ア 終末期に受けたい医療について話し合った相手〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

男女とも「家族・親族」の割合が最も高く、男性 94.7%、女性 94.7%

終末期に受けたい医療について話し合った相手を性別でみると、男女とも「家族・親族」の割合が最も高く（男性 94.7%、女性 94.7%）、次いで「友人・知人」が高くなっている（男性 8.4%、女性 13.4%）。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「ホームヘルパーなどの介護職員、ケアマネージャー」の割合が高くなっている（0.7%～10.6%）。（表 3-15）

表 3-15 終末期に受けたい医療について話し合った相手〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総数	1 家族・親族	2 友人・知人	3 行政機関の相談窓口	4 民生委員	5 ホームヘルパーなどの介護職員、ケアマネージャー	6 医師、看護師などの医療関係者	7 （弁護士、税理士、司法書士など） 3、6以外の専門家	8 その他	無回答
総数		100.0 (812)	94.7	11.2	0.9	0.4	3.9	6.0	1.6	0.2	2.7
性別	男	100.0 (358)	94.7	8.4	0.3	0.3	2.8	7.5	2.0	0.3	2.2
	女	100.0 (454)	94.7	13.4	1.3	0.4	4.8	4.8	1.3	0.2	3.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (144)	95.1	11.8	1.4	-	0.7	4.2	2.8	-	1.4
	70～74歳	100.0 (167)	94.0	12.6	0.6	-	1.8	4.8	2.4	0.6	3.0
	75～79歳	100.0 (192)	95.8	10.9	-	-	2.6	7.3	1.0	0.5	2.6
	80～84歳	100.0 (148)	93.2	17.6	2.7	0.7	4.1	6.8	1.4	-	2.7
	85歳以上	100.0 (161)	95.0	3.7	-	1.2	10.6	6.8	0.6	-	3.7
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (521)	93.5	10.7	0.6	0.4	3.8	6.0	1.3	0.2	2.9
	ひとり暮らし	100.0 (217)	91.2	15.2	1.4	0.5	4.6	6.9	2.8	0.5	2.8
	配偶者と二人暮らし	100.0 (274)	95.3	7.3	-	0.4	2.6	5.1	0.4	-	3.3
	その他	100.0 (30)	93.3	10.0	-	-	10.0	6.7	-	-	-
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (268)	97.0	11.6	1.1	-	4.1	6.0	2.2	0.4	2.2
話にけ終有しつた末無合いい期別いて医にの療受	詳しく話し合っている	100.0 (57)	94.7	8.8	1.8	-	3.5	17.5	-	-	1.8
	一応話し合っている	100.0 (755)	94.7	11.4	0.8	0.4	4.0	5.2	1.7	0.3	2.8

イ 終末期に受けたい医療について話し合った内容〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期の医療について詳しく話し合っている人では「自分の人生観や価値観、大切にしていること」と「延命のための医療を受けたいか」の割合が最も高く、約4割

終末期に受けたい医療について話し合った内容を性別でみると、男女とも「延命のための医療を受けたいか」の割合が最も高く（男性 49.4%、女性 49.1%）、次いで「自分の人生観や価値観、大切にしていること」が高くなっている（男性 34.6%、女性 32.2%）。

終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別でみると、詳しく話し合っている人では「自分の人生観や価値観、大切にしていること」と「延命のための医療を受けたいか」の割合が 40.4% で最も高くなっている。（表 3-16）

表 3-16 終末期に受けたい医療について話し合った内容〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総数	自分の人生観や価値観、大切にしていること	医療・療養を受けたい場所	最期を迎えたい場所	延命のための医療を受けたいか	胃ろうなど（十分な栄養がとれない場合など）	口から十分な栄養がとれない場合（点滴、経鼻栄養など）	呼吸器（気管）に入れた人工呼吸器（人工呼吸器）	処置（心臓マッサージ、電気ショック、人工呼吸器など）	心臓や呼吸が止まった場合の蘇生処置（心臓マッサージ、電気ショック、人工呼吸器など）	家族の意向や希望	その他	無回答
総数		100.0 (812)	33.3	23.6	24.8	49.3	21.7	15.8	14.0	15.8	1.7	8.6		
性別	男	100.0 (358)	<u>34.6</u>	24.9	23.7	<u>49.4</u>	18.2	13.7	12.3	20.1	1.1	7.0		
	女	100.0 (454)	<u>32.2</u>	22.7	25.6	<u>49.1</u>	24.4	17.4	15.4	12.3	2.2	9.9		
年齢階級別	65～69歳	100.0 (144)	36.1	26.4	21.5	63.9	22.2	17.4	18.1	15.3	1.4	3.5		
	70～74歳	100.0 (167)	32.3	22.2	22.2	54.5	28.1	19.8	16.8	22.2	0.6	6.6		
	75～79歳	100.0 (192)	37.0	25.5	25.0	48.4	21.4	17.2	14.1	13.5	3.1	7.8		
	80～84歳	100.0 (148)	35.8	20.9	24.3	36.5	17.6	10.8	8.1	14.9	1.4	10.8		
	85歳以上	100.0 (161)	24.8	23.0	30.4	43.5	18.6	13.0	13.0	13.0	1.9	14.3		
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (521)	34.2	23.4	23.4	48.8	23.6	17.7	15.4	13.8	1.7	7.7		
	ひとり暮らし	100.0 (217)	31.3	22.6	24.0	41.5	19.4	12.4	13.4	12.0	2.8	8.8		
	配偶者と二人暮らし	100.0 (274)	35.0	24.1	22.6	55.8	25.9	21.2	16.4	15.0	1.1	6.6		
	その他	100.0 (30)	46.7	23.3	26.7	36.7	33.3	23.3	20.0	16.7	-	10.0		
	高齢者以外（65歳未満）がいる世帯	100.0 (268)	32.8	23.1	28.0	53.4	19.0	12.3	12.7	20.1	1.9	8.6		
終末期に受けたい医療について話し合った有無別	詳しく話し合っている	100.0 (57)	<u>40.4</u>	35.1	36.8	<u>40.4</u>	26.3	24.6	29.8	22.8	1.8	10.5		
	一応話し合っている	100.0 (755)	32.7	22.8	23.8	49.9	21.3	15.1	12.8	15.2	1.7	8.5		

(3) 終末期に受けたい医療について「話し合ったことはないが、今後話し合いたい」人の状況

ア 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい相手〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

終末期に受けたい医療について今後話し合いたい相手は、ACPを知っている人では「医師、看護師などの医療関係者」の割合が23.8%

終末期に受けたい医療について今後話し合いたい相手を性別でみると、男女とも「家族・親族」の割合が最も高く（男性 83.5%、女性 82.2%）、次いで「医師、看護師などの医療関係者」となっている（男性 17.8%、女性 15.9%）。

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別でみると、「医師、看護師などの医療関係者」の割合は、ACPを知っている人では23.8%となっている。（表3-17）

表3-17 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい相手〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

		総数	1 家族・親族	2 友人・知人	3 行政機関の相談窓口	4 民生委員	5 ホームヘルパーなどの介護職員・ケアマネジャー	6 医師、看護師などの医療関係者	7 （弁護士、税理士、司法書士など） 3、5、6以外の専門家	8 その他	無回答
総数		100.0 (1,872)	82.8	8.5	6.5	1.3	7.6	16.9	3.6	0.4	11.5
性別	男	100.0 (919)	83.5	7.9	6.6	2.0	6.6	17.8	4.2	0.5	9.6
	女	100.0 (953)	82.2	9.0	6.3	0.6	8.6	15.9	3.0	0.2	13.3
年齢階級別	65～69歳	100.0 (457)	87.3	10.3	7.2	0.7	10.1	16.0	3.7	0.7	6.6
	70～74歳	100.0 (432)	83.3	10.2	9.5	1.6	5.6	18.3	4.9	0.2	9.0
	75～79歳	100.0 (493)	82.2	9.7	6.3	0.6	7.1	19.5	3.9	0.4	12.0
	80～84歳	100.0 (278)	79.5	4.7	3.2	2.2	7.2	15.8	2.9	0.4	18.3
	85歳以上	100.0 (212)	77.8	3.3	3.3	2.4	8.5	11.3	1.4	-	17.0
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (1,197)	80.5	9.3	7.5	1.5	7.9	16.8	3.5	0.4	12.2
	ひとり暮らし	100.0 (531)	73.3	12.1	10.5	2.4	9.6	17.9	4.9	0.6	12.8
	配偶者と二人暮らし	100.0 (607)	86.0	6.6	4.8	0.7	5.6	16.1	2.3	0.3	12.0
	その他	100.0 (59)	88.1	11.9	8.5	1.7	15.3	13.6	3.4	-	8.5
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (631)	87.3	7.0	4.8	1.0	7.6	17.4	4.1	0.3	10.0
認知度別の	知っている	100.0 (80)	77.5	8.8	7.5	-	8.8	23.8	3.8	1.3	16.3
	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	100.0 (277)	84.8	11.2	6.5	0.7	6.9	17.7	4.0	0.4	10.5
	知らない	100.0 (1,511)	82.8	8.0	6.4	1.4	7.7	16.4	3.6	0.3	11.4

イ 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい内容〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

終末期に受けたい医療について今後話し合いたい内容は、男性では「医療・療養を受けたい場所」の割合が最も高く、女性では「延命のための医療を受けたいか」が最も高い

終末期に受けたい医療について今後話し合いたい内容を性別でみると、男性では「医療・療養を受けたい場所」の割合が 34.4% で最も高く、次いで「最期を迎えたい場所」が 30.6% となっている。女性では「延命のための医療を受けたいか」の割合が 34.9% で最も高く、次いで「医療・療養を受けたい場所」が 32.9% となっている。

年齢階級別でみると、65～69 歳では、「延命のための医療を受けたいか」の割合が、41.8% で、総数の割合（31.8%）と比べ、10.0 ポイント高くなっている。（表 3-18）

表 3-18 終末期に受けたい医療について今後話し合いたい内容〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度別

		総数	自分の人生観や価値観、大切に	医療・療養を受けたい場所	最期を迎えたい場所	延命のための医療を受けたいか	栄養・胃腸のうなど（点滴、経鼻	口から十分な栄養がとれない（嚥下障害など）	呼吸器（気管）に人工呼吸器を付けて人工呼吸	処置（心臓マッサージ、人工呼吸など）	生体組織（心臓、肺、腎臓、肝臓、膵臓、骨髄など）の移植	家族の意向や希望	その他	無回答
総数		100.0 (1,872)	24.5	33.7	29.3	31.8	19.8	16.7	15.9	26.2	2.1	18.9		
性別	男	100.0 (919)	25.4	34.4	30.6	28.5	17.4	14.3	13.7	30.0	2.0	16.4		
	女	100.0 (953)	23.7	32.9	28.1	34.9	22.0	19.0	18.0	22.5	2.3	21.2		
年齢階級別	65～69歳	100.0 (457)	31.7	35.7	30.9	41.8	25.4	22.1	20.4	32.8	1.1	8.5		
	70～74歳	100.0 (432)	25.0	35.0	28.9	38.7	21.5	18.8	16.9	26.9	2.5	14.8		
	75～79歳	100.0 (493)	23.1	32.5	27.6	27.0	17.8	14.6	15.2	25.4	2.4	22.7		
	80～84歳	100.0 (278)	20.5	33.8	30.9	24.8	16.2	14.7	14.4	20.1	2.5	26.3		
	85歳以上	100.0 (212)	16.5	29.2	28.8	16.5	13.2	8.0	8.0	20.3	2.4	30.7		
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (1,197)	22.5	35.4	30.7	32.3	20.4	17.3	16.3	24.2	2.3	19.2		
	ひとり暮らし	100.0 (531)	20.9	35.2	29.9	33.0	20.0	17.7	17.9	18.8	3.0	21.3		
	配偶者と二人暮らし	100.0 (607)	23.2	35.1	30.3	32.5	20.6	16.5	15.0	28.8	1.8	18.0		
	その他	100.0 (59)	28.8	40.7	40.7	25.4	22.0	22.0	15.3	25.4	1.7	13.6		
	高齢者以外（65歳未満）がいる世帯	100.0 (631)	28.1	30.9	27.6	31.4	19.2	15.7	15.7	31.2	1.3	17.6		
認知度別の	知っている	100.0 (80)	32.5	31.3	33.8	33.8	28.8	27.5	30.0	26.3	3.8	25.0		
	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	100.0 (277)	31.0	29.2	27.8	30.7	20.2	15.5	15.5	23.8	0.7	22.7		
	知らない	100.0 (1,511)	22.9	34.6	29.4	31.9	19.3	16.3	15.3	26.7	2.3	17.8		

12 人生の最期を迎えたい場所

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」の割合が最も高く、33.2%

人生の最期をどこで迎えたいか聞いたところ、「自宅」の割合が 33.2%で最も高く、次いで「特に希望はない」が 16.8%となっている。

性別でみると、男性は「自宅」の割合が 38.8%で最も高く、次いで「特に希望はない」の割合が 20.3%、「わからない」が 12.3%となっている。女性は「自宅」の割合が 27.7%で最も高く、次いで「わからない」が 17.5%、「ホスピス（医療機関の緩和ケア病棟）」が 14.9%となっている。（表 3-19）

表 3-19 人生の最期を迎えたい場所

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総 数	自 宅	子 供 な ど 親 族 の 家	ホ ス ピ ス （ 医 療 機 関 の 緩 和 ケ ア 病 棟 ）	ホ ス ピ ス 以 外 の 医 療 機 関	高 齢 者 向 け 住 宅 （ サ ー ビ ス 付 き 高 齢 者 向 け 住 宅 、 有 料 老 人 ホ ー ム な ど ）	介 護 保 険 で 入 所 で き る 施 設 （ 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム な ど ）	そ の 他	特 に 希 望 は な い	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (3,449)	33.2	0.3	12.6	3.8	3.1	5.6	0.4	16.8	14.9	9.2
性 別	男	100.0 (1,708)	38.8	0.2	10.4	3.0	3.0	4.9	0.4	20.3	12.3	6.7
	女	100.0 (1,741)	27.7	0.5	14.9	4.6	3.2	6.3	0.5	13.3	17.5	11.6
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (739)	26.1	0.4	16.9	4.2	4.1	4.2	－	20.4	20.4	3.2
	70～74歳	100.0 (745)	33.0	0.5	13.6	3.8	3.2	6.6	0.5	16.6	17.6	4.6
	75～79歳	100.0 (875)	33.8	0.3	12.1	4.3	3.5	6.1	0.7	19.4	13.9	5.7
	80～84歳	100.0 (551)	39.2	－	12.3	4.0	1.8	8.2	0.7	14.5	9.8	9.4
	85歳以上	100.0 (539)	36.0	0.4	6.7	2.4	2.2	3.0	0.2	9.8	10.4	28.9
世 帯 類 型 別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	32.0	0.5	12.4	3.8	3.9	6.2	0.4	17.2	15.9	7.8
	ひとり暮らし	100.0 (1,004)	25.7	0.7	12.6	4.1	5.0	7.5	0.5	18.2	17.3	8.4
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	37.5	0.1	12.7	3.6	3.3	5.1	0.4	16.3	14.3	6.7
	その他	100.0 (119)	35.3	1.7	7.6	2.5	0.8	5.0	－	16.8	17.6	12.6
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	35.3	0.1	13.3	4.2	1.6	4.9	0.5	15.8	13.4	10.8
終 末 期 に 受 け た い 医 療 に つ い て の 話 し 合 い の 有 無 別	詳しく話し合っている	100.0 (57)	47.4	1.8	10.5	1.8	1.8	－	1.8	14.0	7.0	14.0
	一応話し合っている	100.0 (755)	35.9	0.7	17.5	3.4	3.6	5.4	0.5	15.2	7.9	9.8
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (1,872)	35.5	0.3	13.4	4.8	3.4	6.8	0.5	16.9	17.8	0.6
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (442)	32.8	－	7.2	2.9	2.9	4.5	－	27.1	21.3	1.1

13 終末期に受けたい医療について書き留めているか〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

終末期に受けたい医療について、ノートなどに「書き留めている」割合が9.9%、「書き留めていない」が80.8%

自身の人生の最終段階で受けたい医療について、ノートなどに書き留めているか聞いたところ、「書き留めている」割合が9.9%、「書き留めていない」が80.8%となっている。また、書き留めた人は、「自分」の割合が8.4%、次いで「家族・親族」が1.4%となっている。

世帯類型別でみると、ひとりぐらしでは、「書き留めている」割合が12.3%となっている。

終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別でみると、詳しく話し合っている人では「書き留めている」割合は40.4%で、書き留めた人は「自分」の割合が33.3%で最も高く、次いで、「家族・親族」が7.0%となっている。（表3-20）

表3-20 終末期に受けたい医療について書き留めているか〔複数回答〕

一性、年齢階級、世帯類型、終末期に受けたい医療についての話し合いの有無別

		総数	書き留めている	自分	家族・親族	ホームヘルパーなどの介護職員・ケアマネジャー	医師、看護師などの医療関係者	その他	書き留めていない	無回答
総数		100.0 (3,449)	9.9	8.4	1.4	0.2	0.5	0.3	80.8	9.3
性別	男	100.0 (1,708)	7.0	5.5	1.4	0.2	0.6	0.4	84.0	9.0
	女	100.0 (1,741)	12.7	11.1	1.5	0.2	0.3	0.2	77.8	9.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (739)	6.8	5.7	1.1	0.1	0.1	0.3	87.7	5.5
	70～74歳	100.0 (745)	7.0	6.3	0.8	—	0.4	0.1	84.4	8.6
	75～79歳	100.0 (875)	9.4	7.8	1.3	—	0.7	0.2	80.3	10.3
	80～84歳	100.0 (551)	13.1	11.6	1.6	0.2	0.4	0.7	76.0	10.9
	85歳以上	100.0 (539)	15.8	12.4	3.0	1.1	0.7	0.2	72.2	12.1
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	9.9	8.5	1.3	0.2	0.5	0.2	80.6	9.4
	ひとりぐらし	100.0 (1,004)	12.3	10.5	1.1	0.5	0.6	0.5	77.9	9.9
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	7.7	6.6	1.3	—	0.4	—	82.9	9.4
	その他	100.0 (119)	10.9	8.4	2.5	—	—	—	83.2	5.9
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	9.2	7.6	1.6	0.1	0.4	0.4	83.1	7.7
話し合いの有無別	終末期に受けたい医療について詳しく話し合っている	100.0 (57)	40.4	33.3	7.0	—	1.8	3.5	50.9	8.8
	一応話し合っている	100.0 (755)	23.0	20.1	2.5	0.5	0.7	0.5	69.9	7.0
	話し合ったことはないが、今後話し合いたい	100.0 (1,872)	6.0	5.2	0.9	0.1	0.3	0.2	87.1	6.9
	話し合ったことはなく、今後も話し合いたくない	100.0 (442)	3.8	2.7	0.9	0.2	0.9	—	93.0	3.2

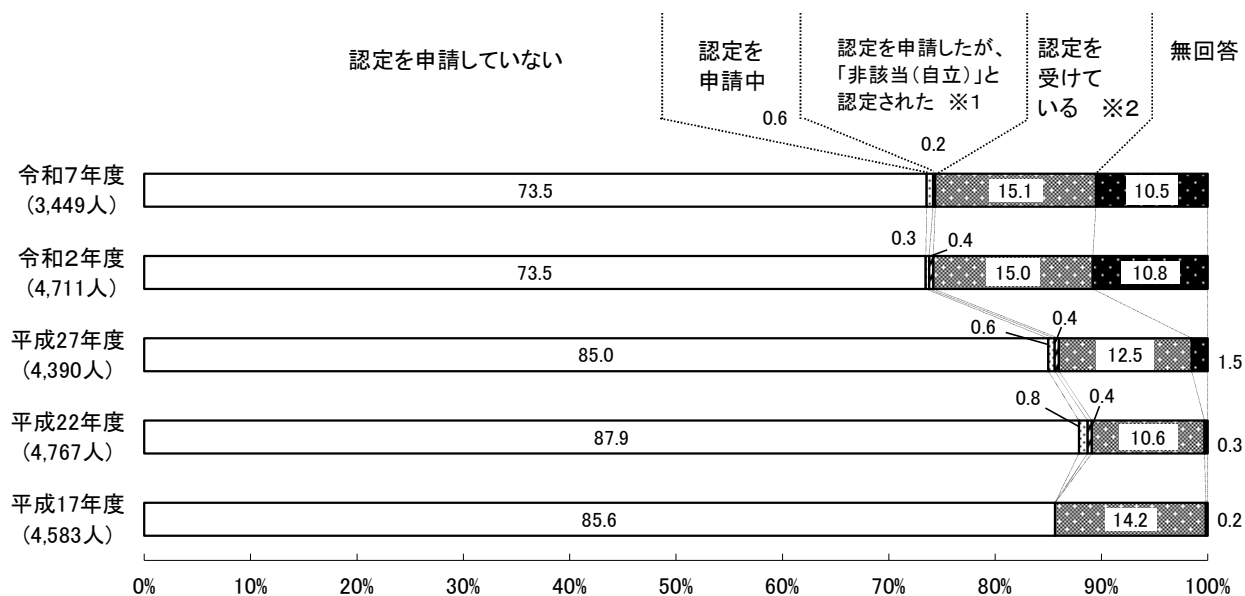
第4章 介護保険制度

1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

「認定を受けている」人の割合は15.1%

介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）を受けているか聞いたところ、「認定を申請していない」人の割合が73.5%、「認定を受けている」人が15.1%となっている。（図4-1）

図4-1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無一過去調査との比較



（注1）※1は、平成17年度調査では選択肢を設けていなかった。

（注2）※2は、平成17年度調査では「認定を申請中」を含む。

(1) 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

一性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

寝たきり高齢者が、「認定を受けている」割合は94.9%、「申請していない」は1.0%

介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）を受けているかを性別でみると、「認定を受けている」割合は、男性11.1%、女性19.1%で、女性の方が8.0ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「認定を受けている」割合が高くなっている（4.0%～38.9%、3.9%～55.4%）。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者では、「認定を受けている」割合が94.9%、「認定を申請していない」が1.0%となっている。（表4-1）

表4-1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

一性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

		総数	い 認 定 を 申 請 し て い ない	認 定 を 申 請 中	と 一 認 定 を 申 請 し た が、 非 該 当 と 認 定 さ れ な か つ た	認 定 を 受 け て い る	無 回 答
総数		100.0 (3,449)	73.5	0.6	0.2	15.1	10.5
性・年齢階級別	男	100.0 (1,708)	77.6	0.6	0.2	11.1	10.4
	65～74歳	100.0 (815)	88.3	—	—	4.0	7.6
	75～84歳	100.0 (695)	74.0	1.2	0.1	11.5	13.2
	85歳以上	100.0 (198)	46.0	1.5	1.5	38.9	12.1
	（再掲）75歳以上	100.0 (893)	67.7	1.2	0.4	17.6	13.0
	女	100.0 (1,741)	69.6	0.5	0.2	19.1	10.6
	65～74歳	100.0 (669)	86.4	0.1	—	3.9	9.6
	75～84歳	100.0 (731)	71.1	0.4	0.3	16.0	12.2
	85歳以上	100.0 (341)	33.1	1.5	0.6	55.4	9.4
	（再掲）75歳以上	100.0 (1,072)	59.0	0.7	0.4	28.5	11.3
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (274)	8.0	1.8	0.4	86.9	2.9
	寝たきり高齢者	100.0 (99)	1.0	1.0	—	94.9	3.0
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (175)	12.0	2.3	0.6	82.3	2.9
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (392)	70.9	1.0	—	18.1	9.9
	軽い障害のある高齢者	100.0 (1,044)	83.2	0.2	0.3	7.7	8.6
	障害のない高齢者	100.0 (1,404)	86.3	0.3	0.1	3.0	10.3
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	73.1	0.7	0.3	15.2	10.7
	ひとり暮らし	100.0 (1,004)	69.1	0.7	0.5	18.7	11.0
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	77.2	0.7	0.1	11.1	10.9
	その他	100.0 (119)	69.7	0.8	0.8	22.7	5.9
	高齢者以外（65歳未満）がいる世帯	100.0 (1,139)	76.7	0.3	0.1	13.7	9.2
令和2年度 （参考）	総数	100.0 (4,711)	73.5	0.3	0.4	15.0	10.8
	男	100.0 (2,138)	77.7	0.3	0.5	11.7	9.7
	女	100.0 (2,573)	70.0	0.3	0.3	17.7	11.7

2 要支援・要介護度及び介護の状況

(1) 要支援・要介護度一性、年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、「要支援1」の割合が21.5%、「要支援2」が19.2%

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（522人）の要支援・要介護度をみると、「要支援1」の割合が21.5%で最も高く、次いで「要支援2」が19.2%となっている。

性別にみると、男女とも「要支援1」割合が最も高くなっている（男性21.6%、女性21.4%）。（表4-2）

表4-2 要支援・要介護度一性、年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

		総 数	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	わ か ら な い は 要 介 護 度 ・ 要 支 援
総数		100.0 (522)	21.5	19.2	16.9	13.0	10.3	6.1	6.1	6.9
性 別	男	100.0 (190)	21.6	18.4	16.8	12.1	10.5	4.7	3.7	12.1
	女	100.0 (332)	21.4	19.6	16.9	13.6	10.2	6.9	7.5	3.9
年 齢 階 級 別	65～74歳	100.0 (59)	15.3	18.6	15.3	8.5	10.2	8.5	1.7	22.0
	75～84歳	100.0 (197)	27.9	23.4	14.2	12.2	5.6	4.1	4.6	8.1
	85歳以上	100.0 (266)	18.0	16.2	19.2	14.7	13.9	7.1	8.3	2.6
	（再掲）75歳以上	100.0 (463)	22.2	19.2	17.1	13.6	10.4	5.8	6.7	5.0
動 作 能 力 類 型 別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (238)	7.6	12.6	20.6	18.1	18.1	10.5	11.3	1.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (71)	33.8	23.9	12.7	15.5	5.6	2.8	—	5.6
	軽い障害のある高齢者	100.0 (80)	36.3	22.5	17.5	3.8	3.8	—	1.3	15.0
	障害のない高齢者	100.0 (42)	52.4	19.0	11.9	—	—	2.4	—	14.3
世 帯 類 型 別	高齢者のみの世帯	100.0 (335)	26.0	19.7	17.3	11.9	7.5	5.1	5.7	6.9
	ひとり暮らし	100.0 (188)	24.5	24.5	16.0	9.0	7.4	4.3	6.9	7.4
	配偶者と二人暮らし	100.0 (120)	29.2	15.0	16.7	15.0	8.3	4.2	5.0	6.7
	その他	100.0 (27)	22.2	7.4	29.6	18.5	3.7	14.8	—	3.7
	高齢者以外（65歳未満） がいる世帯	100.0 (156)	12.8	19.2	16.0	16.0	14.7	7.7	7.1	6.4
令和2年度《参考》		100.0 (706)	22.5	18.6	14.2	14.0	8.5	7.9	5.8	8.5

(2) 介護の状況（対象者が介護を受けている状況）

介護を受けている人のうち、介護者が「子供」である割合が52.6%で最も高い

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（522人）に、家で介護を受けているか聞いたところ、「介護を受けている」割合は72.4%、「介護を受けていない」は22.6%となっている。（図4-2）

介護を受けていると回答した人（378人）に、介護をしている人は誰か聞いたところ、「子供」の割合が52.6%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が39.4%、「配偶者」が27.2%となっている。（図4-3）

さらに、介護をしている人のうち、最も介護をしている時間が長い人は誰か聞いたところ、「子供」の割合が35.4%で最も高く、次いで「配偶者」が24.6%、「ホームヘルパーなどの介護職員」が24.3%となっている。（図4-4）

図4-2 介護の有無－令和2年度調査との比較

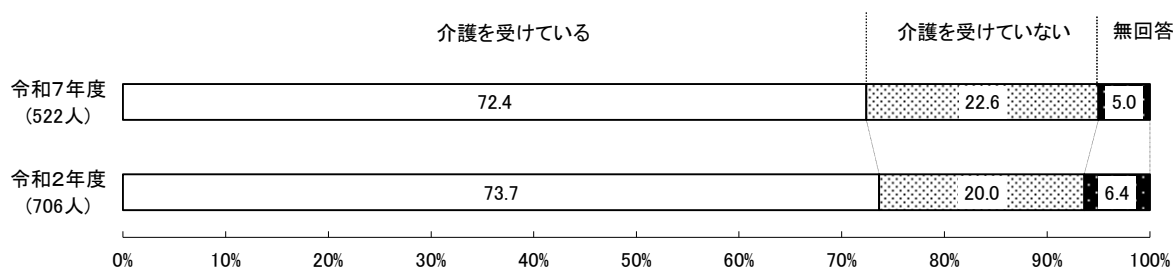


図4-3 対象者本人の介護をしている人〔複数回答〕－令和2年度調査との比較

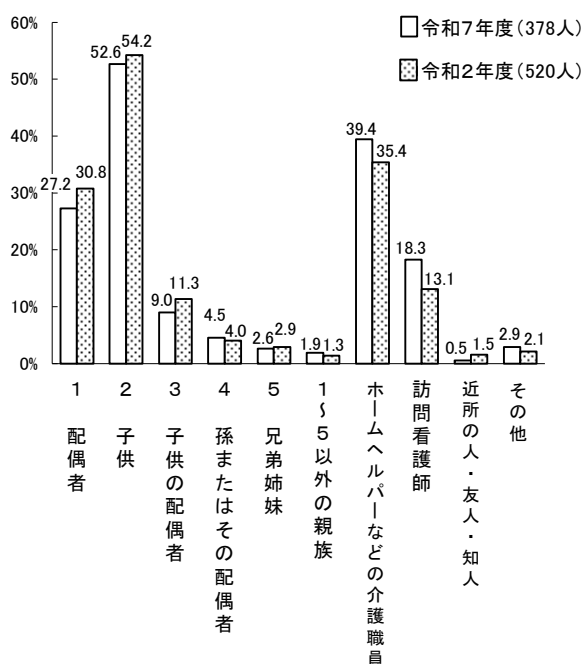
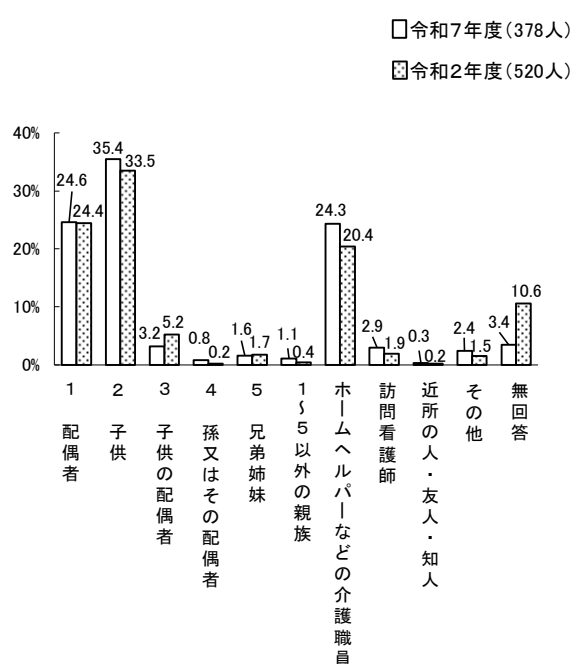


図4-4 最も介護をしている時間が長い人－令和2年度調査との比較



ア 介護をしている人〔複数回答〕－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（378人）を誰が介護しているかについて、介護を受けている人の性・年齢階級別にみると、男性を介護している人は、「配偶者」の割合が54.1%で最も高く、次いで「子供」32.3%、「ホームヘルパーなどの介護職員」28.6%となっている。女性を介護している人は、「子供」の割合が63.7%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」45.3%、「訪問看護師」19.2%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人を介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が64.8%で最も高く、次いで「子供」40.8%となっている。（表4-3）

表4-3 介護をしている人〔複数回答〕－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

		総 数	親 族	1 配 偶 者	2 子 供	3 子 供 の 配 偶 者	4 孫 ま た は そ の 配 偶 者	5 兄 弟 姉 妹	6 1 ～ 5 以 外 の 親 族	親 族 以 外	7 ホ ー ム ヘ ル パ ー な ど の 介 護 職 員	8 訪 問 看 護 師	9 近 所 の 人 ・ 友 人 ・ 知 人	10 そ の 他
総数		100.0 (378)	77.2	27.2	52.6	9.0	4.5	2.6	1.9	49.2	39.4	18.3	0.5	2.9
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (133)	77.4	54.1	32.3	3.8	2.3	0.8	1.5	40.6	28.6	16.5	1.5	4.5
	65～74歳	100.0 (22)	50.0	36.4	13.6	－	－	4.5	4.5	59.1	40.9	13.6	4.5	4.5
	75～84歳	100.0 (50)	82.0	78.0	18.0	－	－	－	－	40.0	28.0	22.0	－	2.0
	85歳以上	100.0 (61)	83.6	41.0	50.8	8.2	4.9	－	1.6	34.4	24.6	13.1	1.6	6.6
	(再掲)75歳以上	100.0 (111)	82.9	57.7	36.0	4.5	2.7	－	0.9	36.9	26.1	17.1	0.9	4.5
	女	100.0 (245)	77.1	12.7	63.7	11.8	5.7	3.7	2.0	53.9	45.3	19.2	－	2.0
	65～74歳	100.0 (17)	82.4	58.8	35.3	－	－	11.8	5.9	35.3	23.5	23.5	－	5.9
	75～84歳	100.0 (72)	77.8	22.2	63.9	5.6	5.6	5.6	－	51.4	37.5	27.8	－	4.2
	85歳以上	100.0 (156)	76.3	3.2	66.7	16.0	6.4	1.9	2.6	57.1	51.3	14.7	－	0.6
	(再掲)75歳以上	100.0 (228)	76.8	9.2	65.8	12.7	6.1	3.1	1.8	55.3	46.9	18.9	－	1.8
配 偶 者 の 有 無 別	配偶者あり	100.0 (137)	87.6	75.2	35.8	3.6	2.2	1.5	－	32.1	22.6	14.6	－	4.4
	男	100.0 (90)	87.8	80.0	27.8	2.2	1.1	－	－	30.0	20.0	15.6	－	3.3
	女	100.0 (47)	87.2	66.0	51.1	6.4	4.3	4.3	－	36.2	27.7	12.8	－	6.4
	配偶者なし	100.0 (241)	71.4	－	62.2	12.0	5.8	3.3	2.9	58.9	49.0	20.3	0.8	2.1
	未婚	100.0 (26)	30.8	－	3.8	－	－	15.4	15.4	84.6	73.1	34.6	3.8	－
	死別	100.0 (198)	78.3	－	70.7	14.1	6.6	1.5	1.5	54.5	44.4	18.2	0.5	2.5
	離別	100.0 (17)	52.9	－	52.9	5.9	5.9	5.9	－	70.6	64.7	23.5	－	－
世 帯 類 型 別	高齢者のみの世帯	100.0 (232)	69.4	31.9	37.9	8.2	3.0	3.9	2.6	53.9	43.1	17.7	0.4	3.0
	ひとりぐらし	100.0 (125)	52.0	1.6	40.8	10.4	4.8	4.0	4.0	75.2	64.8	20.0	0.8	2.4
	配偶者と二人暮らし	100.0 (86)	89.5	83.7	24.4	3.5	1.2	2.3	－	25.6	17.4	11.6	－	4.7
	その他	100.0 (21)	90.5	－	76.2	14.3	－	9.5	4.8	42.9	19.0	28.6	－	－
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (129)	92.2	20.9	78.3	10.1	7.0	0.8	0.8	38.8	31.0	17.8	－	2.3

イ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

ー性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（378人）を誰が最も長い時間介護をしているかについて、介護を受けている人の性・年齢階級別にみると、男性を最も長い時間介護している人は、「配偶者」の割合が51.1%で最も高く、次いで「子供」18.0%、「ホームヘルパーなどの介護職員」16.5%となっている。女性を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が44.9%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」28.6%、「配偶者」10.2%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人を最も長い時間介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が52.0%で最も高くなっている。（表4-4）

表4-4 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

ー性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

		総 数	親 族	1 配 偶 者	2 子 供	3 子 供 の 配 偶 者	4 孫 ま た は そ の 配 偶 者	5 兄 弟 姉 妹	6 1 5 以 外 の 親 族	親 族 以 外	7 ホ ー ム ヘ ル パ ー な ど の 介 護 職 員	8 訪 問 看 護 師	9 近 所 の 人 ・ 友 人 ・ 知 人	10 そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (378)	66.7	24.6	35.4	3.2	0.8	1.6	1.1	29.9	24.3	2.9	0.3	2.4	3.4
性・年齢階級別	男	100.0 (133)	72.9	<u>51.1</u>	<u>18.0</u>	2.3	0.8	-	0.8	24.8	<u>16.5</u>	3.8	0.8	3.8	2.3
	65～74歳	100.0 (22)	45.5	36.4	4.5	-	-	-	4.5	54.5	36.4	9.1	4.5	4.5	-
	75～84歳	100.0 (50)	78.0	74.0	4.0	-	-	-	-	18.0	12.0	4.0	-	2.0	4.0
	85歳以上	100.0 (61)	78.7	37.7	34.4	4.9	1.6	-	-	19.7	13.1	1.6	-	4.9	1.6
	(再掲)75歳以上	100.0 (111)	78.4	54.1	20.7	2.7	0.9	-	-	18.9	12.6	2.7	-	3.6	2.7
	女	100.0 (245)	63.3	<u>10.2</u>	<u>44.9</u>	3.7	0.8	2.4	1.2	32.7	<u>28.6</u>	2.4	-	1.6	4.1
	65～74歳	100.0 (17)	76.5	47.1	17.6	-	-	5.9	5.9	17.6	5.9	5.9	-	5.9	5.9
	75～84歳	100.0 (72)	62.5	16.7	41.7	1.4	-	2.8	-	31.9	23.6	5.6	-	2.8	5.6
	85歳以上	100.0 (156)	62.2	3.2	49.4	5.1	1.3	1.9	1.3	34.6	33.3	0.6	-	0.6	3.2
	(再掲)75歳以上	100.0 (228)	62.3	7.5	46.9	3.9	0.9	2.2	0.9	33.8	30.3	2.2	-	1.3	3.9
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (137)	82.5	67.9	13.9	0.7	-	-	-	13.9	8.0	2.2	-	3.6	3.6
	男	100.0 (90)	85.6	75.6	8.9	1.1	-	-	-	12.2	5.6	3.3	-	3.3	2.2
	女	100.0 (47)	76.6	53.2	23.4	-	-	-	-	17.0	12.8	-	-	4.3	6.4
	配偶者なし	100.0 (241)	57.7	-	47.7	4.6	1.2	2.5	1.7	39.0	33.6	3.3	0.4	1.7	3.3
	未婚	100.0 (26)	23.1	-	3.8	-	-	7.7	11.5	76.9	69.2	3.8	3.8	-	-
	死別	100.0 (198)	63.6	-	54.5	5.6	1.5	1.5	0.5	32.8	28.3	2.5	-	2.0	3.5
	離別	100.0 (17)	41.2	-	35.3	-	-	5.9	-	52.9	41.2	11.8	-	-	5.9
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (232)	58.2	30.6	21.6	2.2	0.4	2.2	1.3	38.4	31.0	3.9	0.4	3.0	3.4
	ひとりぐらし	100.0 (125)	34.4	1.6	25.6	1.6	0.8	3.2	1.6	60.8	<u>52.0</u>	5.6	0.8	2.4	4.8
	配偶者と二人暮らし	100.0 (86)	86.0	80.2	5.8	-	-	-	-	11.6	5.8	1.2	-	4.7	2.3
	その他	100.0 (21)	85.7	-	61.9	14.3	-	4.8	4.8	14.3	9.5	4.8	-	-	-
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (129)	83.7	16.3	59.7	4.7	1.6	0.8	0.8	14.0	10.9	1.6	-	1.6	2.3

ウ 介護をしている人〔複数回答〕－動作能力類型、要支援・要介護度別

寝たきり高齢者を介護している人は、「子供」の割合が 60.9%、「ホームヘルパーなどの介護職員」が 45.7%

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（378人）を誰が介護しているかについて、介護を受けている人の動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者を介護している人では、「子供」の割合が 60.9%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が 45.7%となっている。（表 4-5）

表 4-5 介護をしている人〔複数回答〕－動作能力類型、要支援・要介護度別

		総 数	親 族	1 配 偶 者	2 子 供	3 子 供 の 配 偶 者	4 孫 ま た は そ の 配 偶 者	5 兄 弟 姉 妹	6 1 ～ 5 以 外 の 親 族	親 族 以 外	7 ホ ー ム ヘ ル パ ー な ど の 介 護 職 員	8 訪 問 看 護 師	9 近 所 の 人 ・ 友 人 ・ 知 人	10 そ の 他
総数		100.0 (378)	77.2	27.2	52.6	9.0	4.5	2.6	1.9	49.2	39.4	18.3	0.5	2.9
動作能力 類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (226)	77.4	23.9	56.6	10.2	4.9	2.2	1.3	51.3	40.7	19.0	0.4	4.4
	寝たきり高齢者	100.0 (92)	76.1	15.2	<u>60.9</u>	7.6	2.2	2.2	1.1	60.9	<u>45.7</u>	27.2	－	7.6
	寝たきりに近い 高齢者	100.0 (134)	78.4	29.9	53.7	11.9	6.7	2.2	1.5	44.8	37.3	13.4	0.7	2.2
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (40)	80.0	37.5	45.0	7.5	7.5	5.0	7.5	40.0	35.0	15.0	－	－
	軽い障害のある高齢者	100.0 (42)	73.8	28.6	47.6	2.4	－	2.4	2.4	42.9	35.7	7.1	2.4	－
	障害のない高齢者	100.0 (14)	71.4	42.9	28.6	7.1	－	7.1	－	42.9	35.7	7.1	－	7.1
要支援・ 要介護度 別	要支援1	100.0 (53)	79.2	37.7	47.2	5.7	1.9	3.8	3.8	32.1	26.4	9.4	－	1.9
	要支援2	100.0 (65)	75.4	23.1	56.9	4.6	3.1	1.5	－	47.7	40.0	13.8	1.5	1.5
	要介護1	100.0 (81)	79.0	27.2	54.3	12.3	4.9	－	2.5	43.2	37.0	11.1	－	1.2
	要介護2	100.0 (65)	78.5	30.8	52.3	9.2	7.7	7.7	1.5	44.6	36.9	13.8	－	－
	要介護3	100.0 (50)	72.0	26.0	42.0	18.0	6.0	2.0	4.0	54.0	42.0	18.0	－	8.0
	要介護4	100.0 (29)	75.9	13.8	69.0	3.4	3.4	－	－	65.5	48.3	31.0	－	6.9
	要介護5	100.0 (27)	81.5	22.2	63.0	－	3.7	－	－	85.2	66.7	59.3	－	3.7

エ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

－動作能力類型、要支援・要介護度別

寝たきり高齢者を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が42.4%、
「ホームヘルパーなどの介護職員」が23.9%

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（378人）を誰が最も長い時間介護しているかについて、介護を受けている人の動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が42.4%で最も高く、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が23.9%となっている。

寝たきりに近い高齢者を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が35.8%で最も高くなっている。（表4-6）

表4-6 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

－動作能力類型、要支援・要介護度別

		総 数	親 族	1 配 偶 者	2 子 供	3 子 供 の 配 偶 者	4 孫 ま た は そ の 配 偶 者	5 兄 弟 姉 妹	6 1 ～ 5 以 外 の 親 族	親 族 以 外	7 ホ ー ム ヘル パー など の 介 護 職 員	8 訪 問 看 護 師	9 近 所 の 人 ・ 友 人 ・ 知 人	10 そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (378)	66.7	24.6	35.4	3.2	0.8	1.6	1.1	29.9	24.3	2.9	0.3	2.4	3.4
動作能力 類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (226)	67.7	21.2	38.5	4.0	1.3	1.8	0.9	30.1	24.3	2.2	－	3.5	2.2
	寝たきり高齢者	100.0 (92)	64.1	15.2	<u>42.4</u>	2.2	1.1	2.2	1.1	34.8	<u>23.9</u>	3.3	－	7.6	1.1
	寝たきりに近い 高齢者	100.0 (134)	70.1	25.4	<u>35.8</u>	5.2	1.5	1.5	0.7	26.9	24.6	1.5	－	0.7	3.0
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (40)	70.0	35.0	25.0	2.5	－	2.5	5.0	27.5	25.0	2.5	－	－	2.5
	軽い障害のある高齢者	100.0 (42)	66.7	28.6	38.1	－	－	－	－	31.0	26.2	2.4	2.4	－	2.4
	障害のない高齢者	100.0 (14)	50.0	35.7	14.3	－	－	－	－	42.9	35.7	－	－	7.1	7.1
要支援・要 介護度別	要支援1	100.0 (53)	73.6	34.0	32.1	1.9	－	3.8	1.9	22.6	22.6	－	－	－	3.8
	要支援2	100.0 (65)	60.0	21.5	36.9	1.5	－	－	－	35.4	29.2	6.2	－	－	4.6
	要介護1	100.0 (81)	67.9	22.2	39.5	3.7	1.2	－	1.2	27.2	23.5	2.5	－	1.2	4.9
	要介護2	100.0 (65)	72.3	30.8	30.8	3.1	1.5	4.6	1.5	26.2	23.1	3.1	－	－	1.5
	要介護3	100.0 (50)	66.0	24.0	28.0	8.0	2.0	2.0	2.0	32.0	24.0	－	－	8.0	2.0
	要介護4	100.0 (29)	62.1	10.3	51.7	－	－	－	－	37.9	27.6	3.4	－	6.9	－
	要介護5	100.0 (27)	66.7	22.2	44.4	－	－	－	－	29.6	22.2	3.7	－	3.7	3.7

3 日常生活支援サービス

(1) 日常生活支援サービスの現在の利用状況

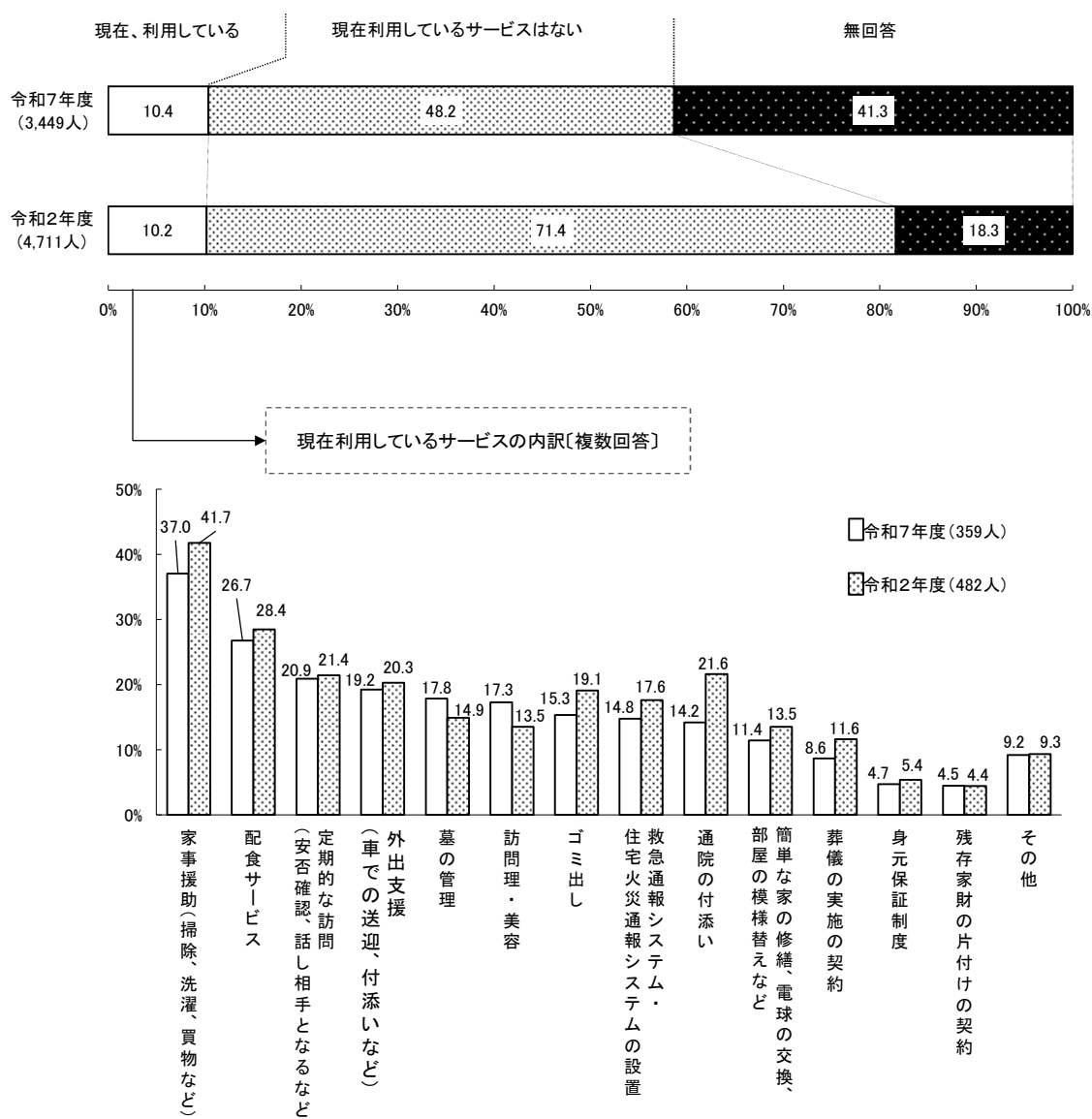
日常生活支援サービスを「現在、利用している」人の割合は10.4%

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない）の利用状況について聞いたところ、「現在利用しているサービスはない」の割合が48.2%で、「現在、利用している」人は10.4%となっている。

「現在、利用している」と回答した人（359人）に利用しているサービスについて聞いたところ、「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の割合が37.0%で最も高く、次いで「配食サービス」が26.7%となっている。

令和2年度調査と比べて、「通院の付添い」の割合は7.4ポイント減少している。（図4-5）

図4-5 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕－令和2年度調査との比較



ア 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕一性・年齢階級、世帯類型別

85歳以上では「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の利用割合が最も高く、男性9.1%、女性14.4%

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の利用状況を性・年齢階級別にみると、女性の「残存家財の片づけの契約」を除く、全ての日常の生活を支援するサービスで、男女とも85歳以上の利用割合が最も高くなっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人は、「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」が8.2%で、総数の割合（3.9%）に比べて高くなっている。（表4-7）

表4-7 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕
一性・年齢階級、世帯類型別

		総数	配食サービス	家事援助 （掃除、洗濯、買物など）	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替えなど	ゴミ出し	外出支援 （車での送迎、付添いなど）	通院の付添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となるなど）	住宅火災通報システム・救急通報システム・設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	現在利用しているサービスは	無回答
総数		100.0 (3,449)	2.8	3.9	1.2	1.6	2.0	1.5	2.2	1.5	1.8	0.5	0.9	0.5	1.9	1.0	48.2	41.3
性・年齢階級別	男	100.0 (1,708)	2.3	2.6	0.8	1.3	1.6	1.1	1.3	1.0	1.0	0.5	0.7	0.6	2.0	0.7	51.8	39.6
	65～74歳	100.0 (815)	1.7	1.7	0.6	0.9	0.4	0.4	1.0	1.1	0.7	0.5	0.5	0.4	1.0	0.5	52.1	42.3
	75～84歳	100.0 (695)	1.9	1.7	0.7	0.9	1.9	0.9	1.2	0.6	0.6	0.3	0.4	0.6	2.0	0.6	52.4	39.4
	85歳以上	100.0 (198)	6.6	9.1	2.0	4.5	5.6	5.1	3.0	2.0	3.5	1.0	2.5	1.5	6.1	2.0	48.0	29.3
	（再掲）75歳以上	100.0 (893)	2.9	3.4	1.0	1.7	2.7	1.8	1.6	0.9	1.2	0.4	0.9	0.8	2.9	0.9	51.4	37.2
	女	100.0 (1,741)	3.2	5.1	1.6	1.9	2.4	1.8	3.0	2.1	2.6	0.5	1.1	0.3	1.7	1.2	44.8	43.0
	65～74歳	100.0 (669)	0.9	0.4	0.4	0.1	0.3	0.1	1.0	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	49.5	47.4
	75～84歳	100.0 (731)	2.2	5.1	1.4	2.1	2.1	1.9	2.3	2.1	1.6	0.4	1.5	0.4	2.1	1.1	45.3	43.8
	85歳以上	100.0 (341)	10.0	14.4	4.1	5.0	7.3	5.0	8.5	5.3	9.1	1.2	1.8	0.3	3.8	2.6	34.6	32.8
	（再掲）75歳以上	100.0 (1,072)	4.7	8.0	2.2	3.0	3.7	2.9	4.3	3.1	4.0	0.7	1.6	0.4	2.6	1.6	41.9	40.3
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	2.9	4.7	1.3	1.9	1.9	1.5	2.4	1.9	1.7	0.6	1.0	0.5	2.0	1.1	47.0	41.7
	ひとりぐらし	100.0 (1,004)	4.2	8.2	2.1	3.2	3.0	2.2	3.9	2.9	2.5	1.1	1.2	0.9	2.4	1.2	39.4	44.4
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	1.8	1.8	0.7	0.8	1.0	0.9	1.1	1.1	0.6	0.3	0.7	0.3	1.8	0.9	53.6	39.6
	その他	100.0 (119)	2.5	1.7	-	-	-	-	1.7	-	5.0	-	0.8	-	1.7	2.5	50.4	37.8
	高齢者以外（65歳未満）がいる世帯	100.0 (1,139)	2.7	2.2	0.8	1.0	2.0	1.6	1.5	0.9	1.8	0.3	0.9	0.4	1.5	0.3	51.8	40.3

イ 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－動作能力類型、要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別

要介護認定を受けている人では「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の利用割合が 21.6%

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の利用状況を動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者では、「訪問理・美容」の割合が 18.2%で最も高く、次いで「外出支援（車での送迎、付添いなど）」14.1%、「配食サービス」12.1%となっている。

寝たきりに近い高齢者では、「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の割合が 22.3%で最も高く、次いで「定期的な訪問（安否確認、話し相手となるなど）」16.6%、「配食サービス」及び「訪問理・美容」が 16.0%となっている。

要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別にみると、認定を受けている人では、「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の割合が 21.6%で最も高くなっている。（表 4-8）

表 4-8 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－動作能力類型、要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別

		総数	配食サービス	家事援助 （掃除、洗濯、買物など）	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替えなど	ゴミ出し	外出支援 （車での送迎、付添いなど）	通院の付添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となるなど）	住宅火災通報システム・救急通報システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	現在利用しているサービスは	無回答
総数		100.0 (3,449)	2.8	3.9	1.2	1.6	2.0	1.5	2.2	1.5	1.8	0.5	0.9	0.5	1.9	1.0	48.2	41.3
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (274)	14.6	18.2	6.2	9.5	14.6	11.3	13.5	7.7	16.8	2.6	2.9	2.2	5.8	4.7	32.5	21.9
	寝たきり高齢者	100.0 (99)	<u>12.1</u>	11.1	6.1	7.1	<u>14.1</u>	6.1	8.1	6.1	<u>18.2</u>	1.0	2.0	1.0	2.0	5.1	34.3	23.2
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (175)	<u>16.0</u>	<u>22.3</u>	6.3	10.9	14.9	14.3	<u>16.6</u>	8.6	<u>16.0</u>	3.4	3.4	2.9	8.0	4.6	31.4	21.1
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (392)	2.0	5.1	1.0	1.0	2.0	2.0	2.8	1.5	0.8	0.5	1.0	0.5	2.0	0.5	38.5	50.0
	軽い障害のある高齢者	100.0 (1,044)	2.0	2.3	0.7	0.6	0.6	0.5	0.7	1.1	0.1	0.2	0.4	0.1	1.3	0.6	48.5	44.3
	障害のない高齢者	100.0 (1,404)	1.3	1.1	0.5	0.5	0.4	0.2	0.4	0.6	0.2	0.3	0.6	0.4	0.9	0.6	55.7	40.4
要介護認定申請の有無別	認定を申請していない	100.0 (2,536)	1.2	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2	0.4	0.7	0.2	0.2	0.6	0.3	1.1	0.5	52.9	43.1
	認定を申請中	100.0 (20)	-	5.0	-	-	-	-	5.0	-	-	-	5.0	-	-	-	30.0	55.0
	認定を申請したが、「非該当（自立）」と認定された	100.0 (8)	-	25.0	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	50.0	25.0
	認定を受けている	100.0 (522)	12.6	<u>21.6</u>	5.4	8.2	11.3	8.2	11.5	5.9	10.5	1.9	2.7	1.3	6.5	3.4	31.8	22.8

(2) 日常生活支援サービスの今後の利用意向

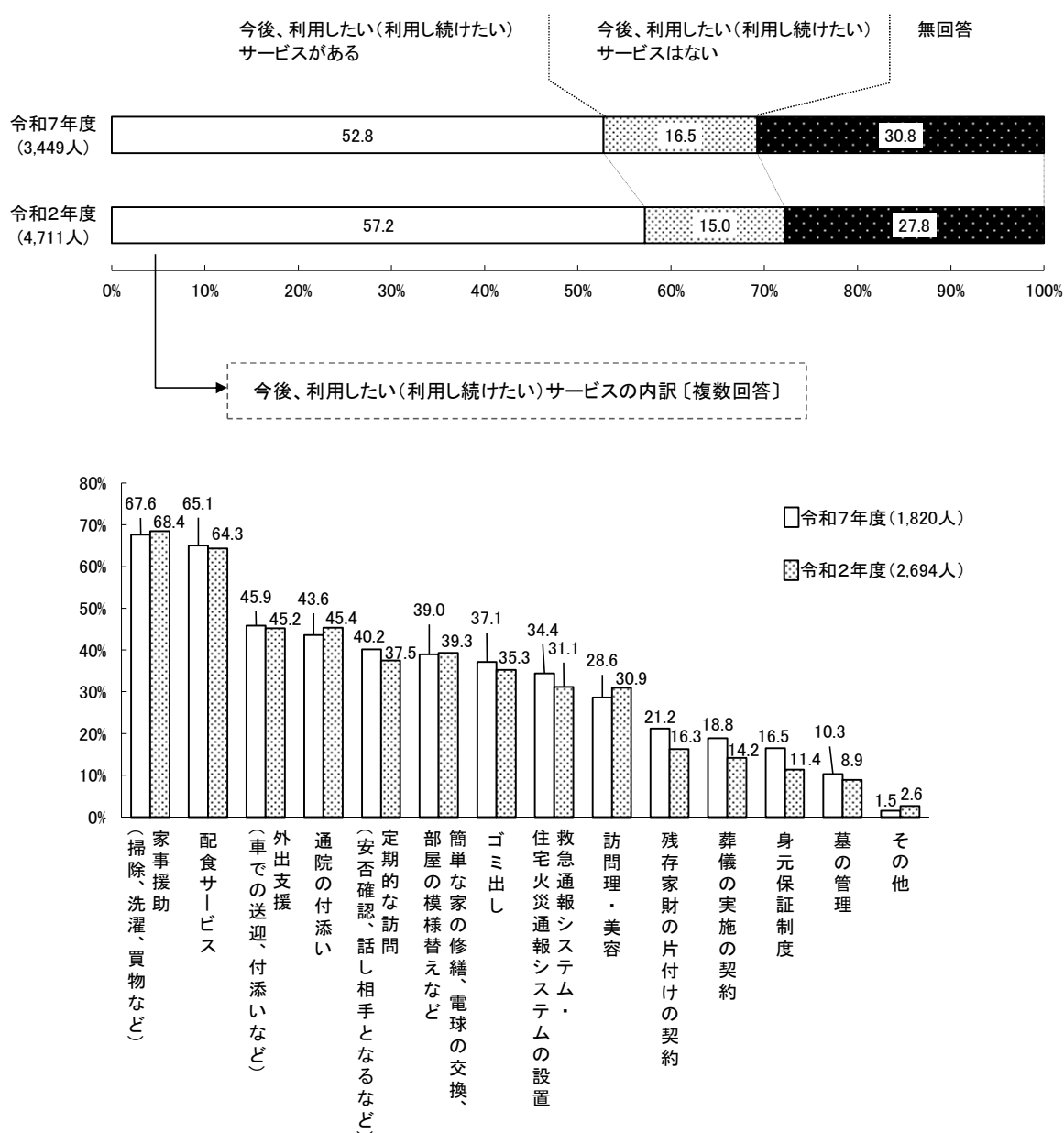
「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」人の割合は52.8%

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の今後の利用意向を聞いたところ、「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」人の割合は52.8%で、「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスはない」が16.5%となっている。

「今後、利用したい（利用し続けたい）サービスがある」と回答した人（1,820人）に利用したいサービスについて聞いたところ、「家事援助（掃除・洗濯・買物など）」の割合が67.6%で最も高く、次いで「配食サービス」が65.1%となっている。

令和2年度調査と比べて、「身元保証制度」の割合は5.1ポイント増加している。（図4-6）

図4-6 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕－令和2年度調査との比較



ア 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕一性・年齢階級、世帯類型別

65～74歳の女性では、「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の利用意向の割合は42.5%

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の今後の利用意向を性別にみると、「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の割合は、男性32.8%、女性38.4%で女性の方が5.6ポイント高くなっている。

性・年齢階級別でみると、65～74歳女性では、「家事援助（掃除、洗濯、買物など）」の割合が42.5%となっている。（表4-9）

表4-9 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕

一性・年齢階級、世帯類型別

		総数	配食サービス	家事援助 （掃除、洗濯、買物など）	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替えなど	ゴミ出し	外出支援 （車での送迎、付添いなど）	通院の付添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となるなど）	住宅火災通報システム・救急通報システム・設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	今後利用したいサービスはない（利用し続け	無回答
総数		100.0 (3,449)	34.3	35.7	20.6	19.6	24.2	23.0	21.2	18.2	15.1	8.7	9.9	11.2	5.4	0.8	16.5	30.8
性・年齢階級別	男	100.0 (1,708)	33.5	32.8	19.2	19.1	23.0	20.8	21.6	17.2	12.6	10.3	11.9	11.9	7.7	1.0	20.3	30.9
	65～74歳	100.0 (815)	35.7	34.8	20.7	20.6	24.7	22.9	23.8	19.6	13.5	12.3	14.0	14.2	9.3	1.1	22.7	26.9
	75～84歳	100.0 (695)	34.2	33.1	18.8	19.9	23.9	20.3	20.4	16.1	12.2	9.4	10.5	10.5	6.2	0.9	19.9	30.4
	85歳以上	100.0 (198)	22.2	23.7	14.1	10.1	13.1	14.1	16.7	10.6	10.1	5.6	8.6	7.6	6.6	1.0	11.6	49.0
	（再掲）75歳以上	100.0 (893)	31.6	31.0	17.8	17.7	21.5	18.9	19.6	14.9	11.8	8.5	10.1	9.9	6.3	0.9	18.0	34.5
	女	100.0 (1,741)	35.1	38.4	21.9	20.1	25.4	25.2	20.8	19.1	17.6	7.1	8.0	10.5	3.2	0.6	12.8	30.7
	65～74歳	100.0 (669)	38.7	42.5	22.0	21.5	30.2	28.1	24.7	24.1	18.1	9.4	10.5	12.7	3.0	0.1	16.0	22.9
	75～84歳	100.0 (731)	37.8	40.8	25.2	21.6	26.0	26.5	20.9	18.9	19.3	6.4	7.1	10.0	3.8	1.2	12.7	28.3
	85歳以上	100.0 (341)	22.3	25.5	14.7	14.1	14.7	16.4	12.9	10.0	12.9	4.1	5.0	7.0	2.1	0.3	6.5	51.0
	（再掲）75歳以上	100.0 (1,072)	32.8	35.9	21.8	19.2	22.4	23.3	18.4	16.0	17.3	5.7	6.4	9.0	3.3	0.9	10.7	35.5
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	37.9	39.8	23.7	22.7	25.2	24.8	23.9	20.1	15.9	10.3	11.5	13.6	6.1	0.7	14.5	28.6
	ひとり暮らし	100.0 (1,004)	36.8	39.9	23.7	23.4	23.0	24.6	24.9	19.6	14.7	12.5	12.8	17.2	6.6	0.6	10.6	30.5
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	39.3	40.4	23.5	22.0	27.2	24.7	23.2	20.8	16.8	8.1	9.1	9.3	5.5	0.7	17.7	26.8
	その他	100.0 (119)	33.6	33.6	26.1	22.7	26.1	26.9	22.7	17.6	16.8	10.9	21.0	21.0	7.6	1.7	17.6	29.4
	高齢者以外（65歳未満）がいる世帯	100.0 (1,139)	28.8	28.4	14.7	13.7	23.0	20.4	16.8	15.1	14.0	6.0	7.4	7.1	4.0	0.8	21.3	32.6

4 介護予防

(1) 運動の状況

「運動している」人の割合は 58.3%

現在、介護予防や健康づくりのために運動をしているか聞いたところ、「運動している」人の割合が 58.3%、「運動していない」人が 34.0%となっている。(図 4-7)

運動している人(2,011人)に運動頻度を聞いたところ、「週2回以上」の割合が 70.9%で、最も高くなっている。(図 4-8)

また、運動の継続期間を聞いたところ、「15年以上」の割合が 28.6%で最も高くなっている。(図 4-9)

図 4-7 運動の有無

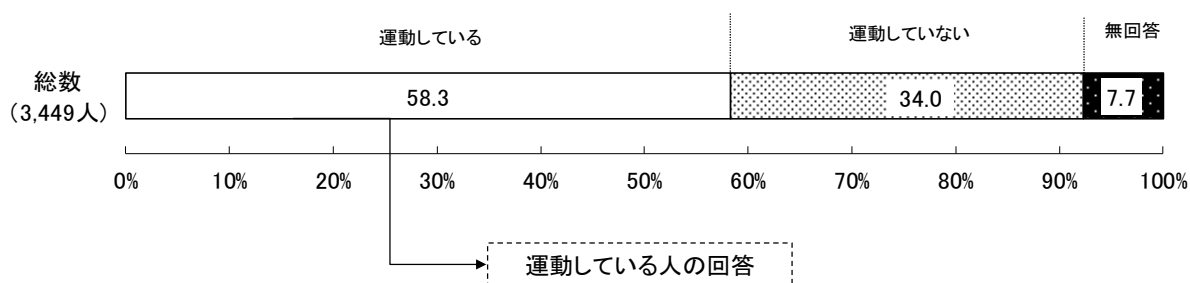


図 4-8 運動頻度

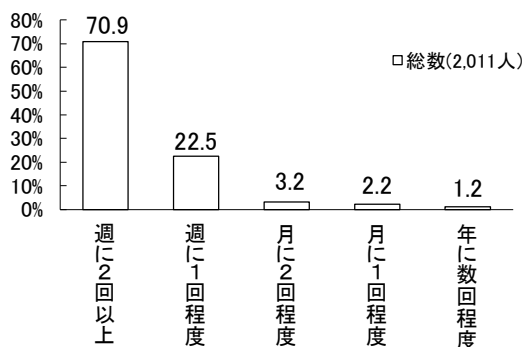
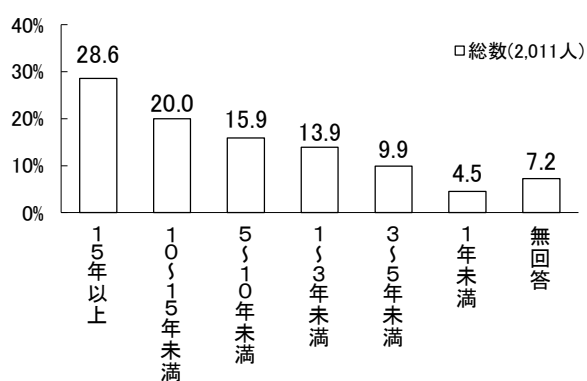


図 4-9 継続期間



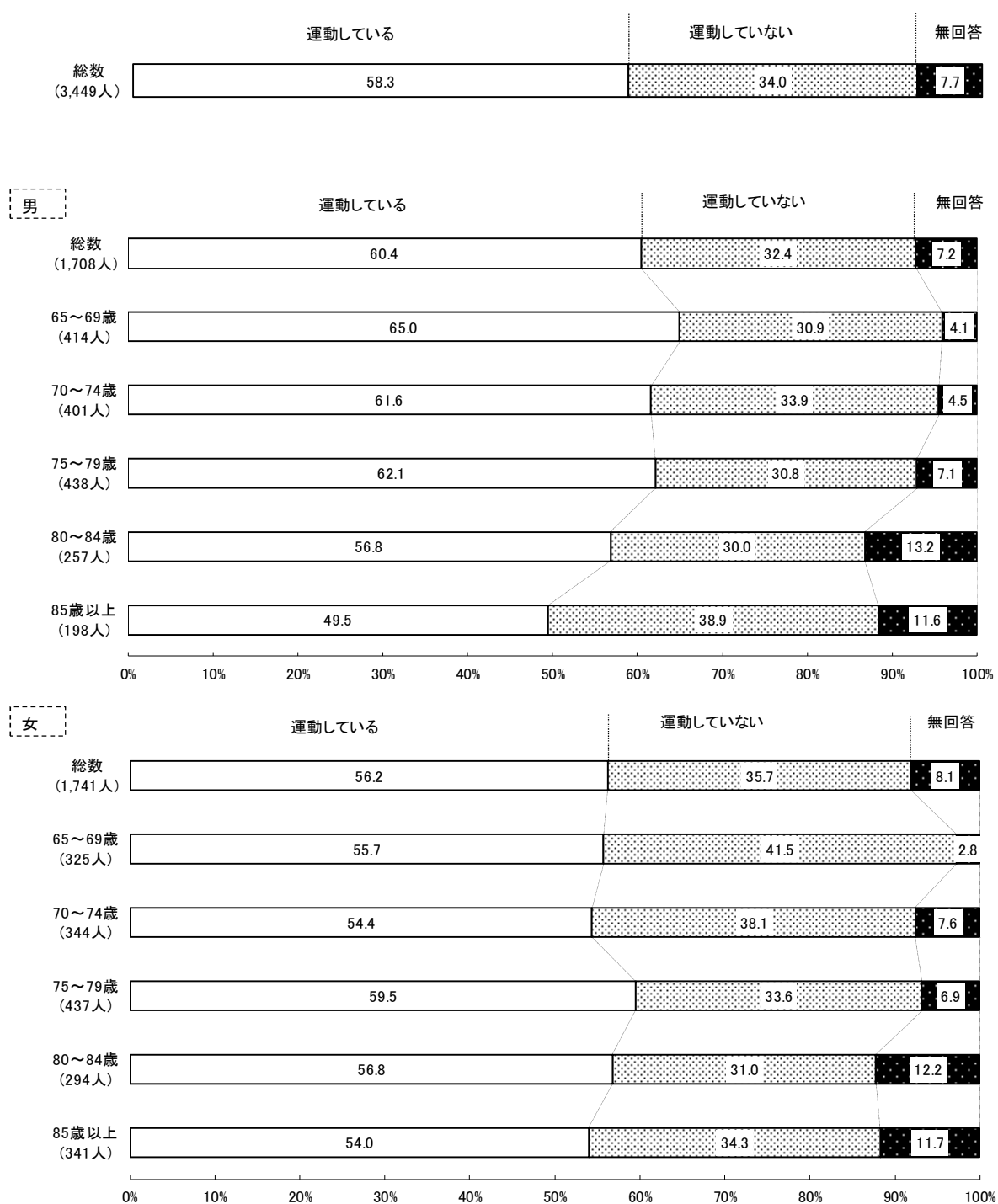
ア 運動の有無一性・年齢階級別

「運動している」人の割合は男性 60.4%、女性 56.2%

運動の有無を性別でみると、「運動している」人の割合は、男性 60.4%、女性 56.2%となっている。

性・年齢階級でみると、「運動している」人の割合は、男性は 65～69 歳が最も高く、65.0%、女性は 75～79 歳が最も高く 59.5%となっている。(図 4-10)

図 4-10 運動の有無一性・年齢階級別

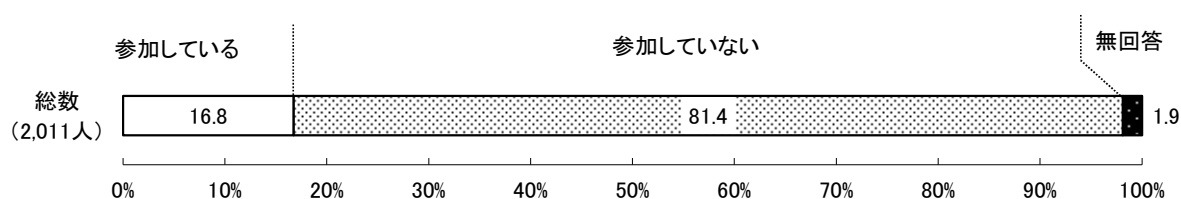


(2) 介護予防活動（区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室など）への参加の有無

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などに
「参加している」人の割合は 16.8%

現在、介護予防や健康づくりのために運動している人（2,011 人）に区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などに参加しているか聞いたところ、「参加している」割合が 16.8%、「参加していない」が 81.4%となっている。（図 4-11）

図 4-11 介護予防活動への参加の有無

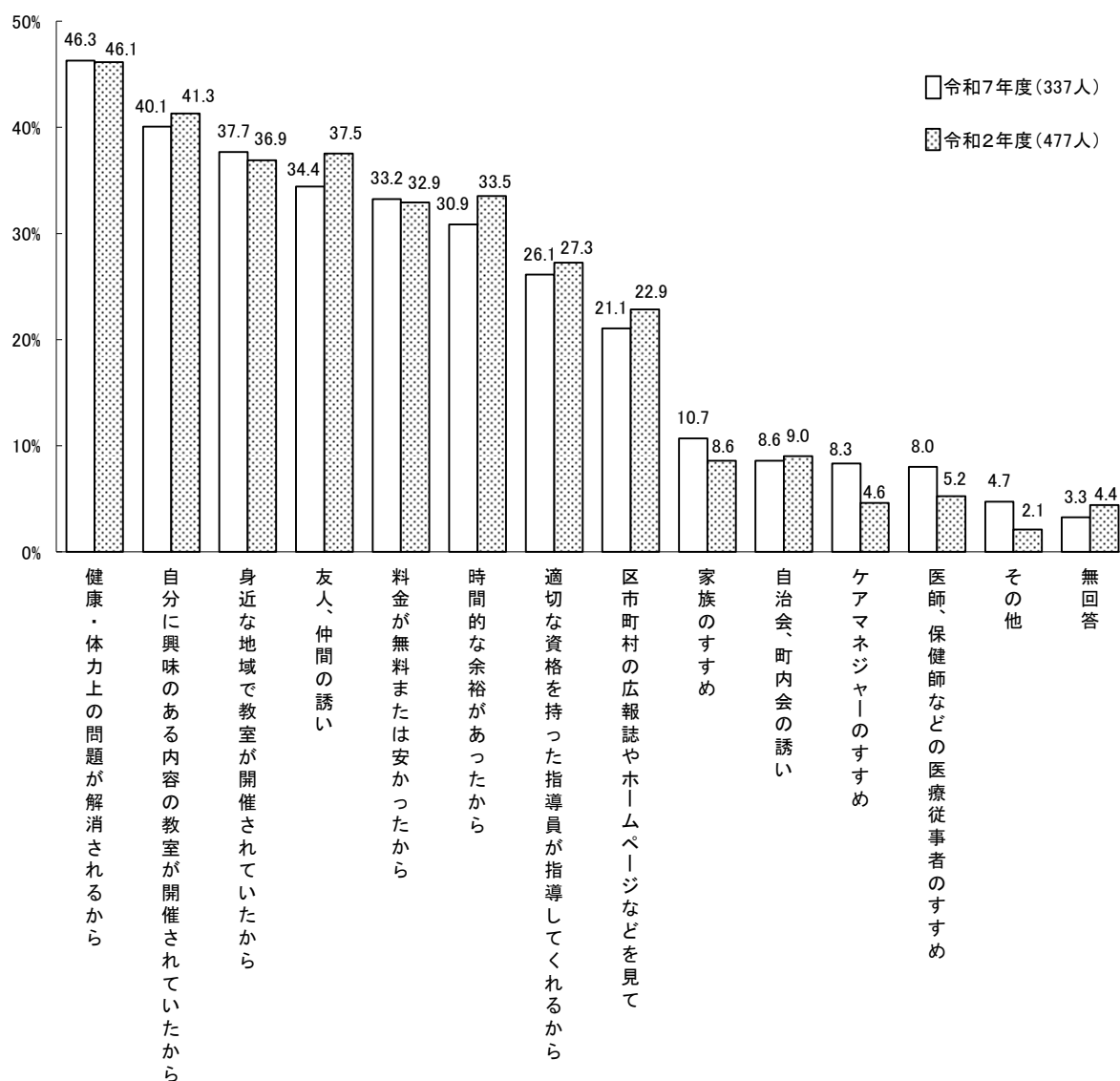


(3) 介護予防活動（区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室など）に参加したきっかけ

介護予防活動に参加したきっかけは、「健康・体力上の問題が解消されるから」の割合が最も高く、46.3%

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動を行っている人（337人）に、そのような教室などに参加したきっかけを聞いたところ、「健康・体力上の問題が解消されるから」の割合が46.3%で最も高く、次いで「自分に興味のある内容の教室が開催されていたから」が40.1%となっている。（図4-12）

図4-12 介護予防活動に参加したきっかけ〔複数回答〕－令和2年度調査との比較



(4) 介護予防活動（区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室など）
に参加するために必要な条件

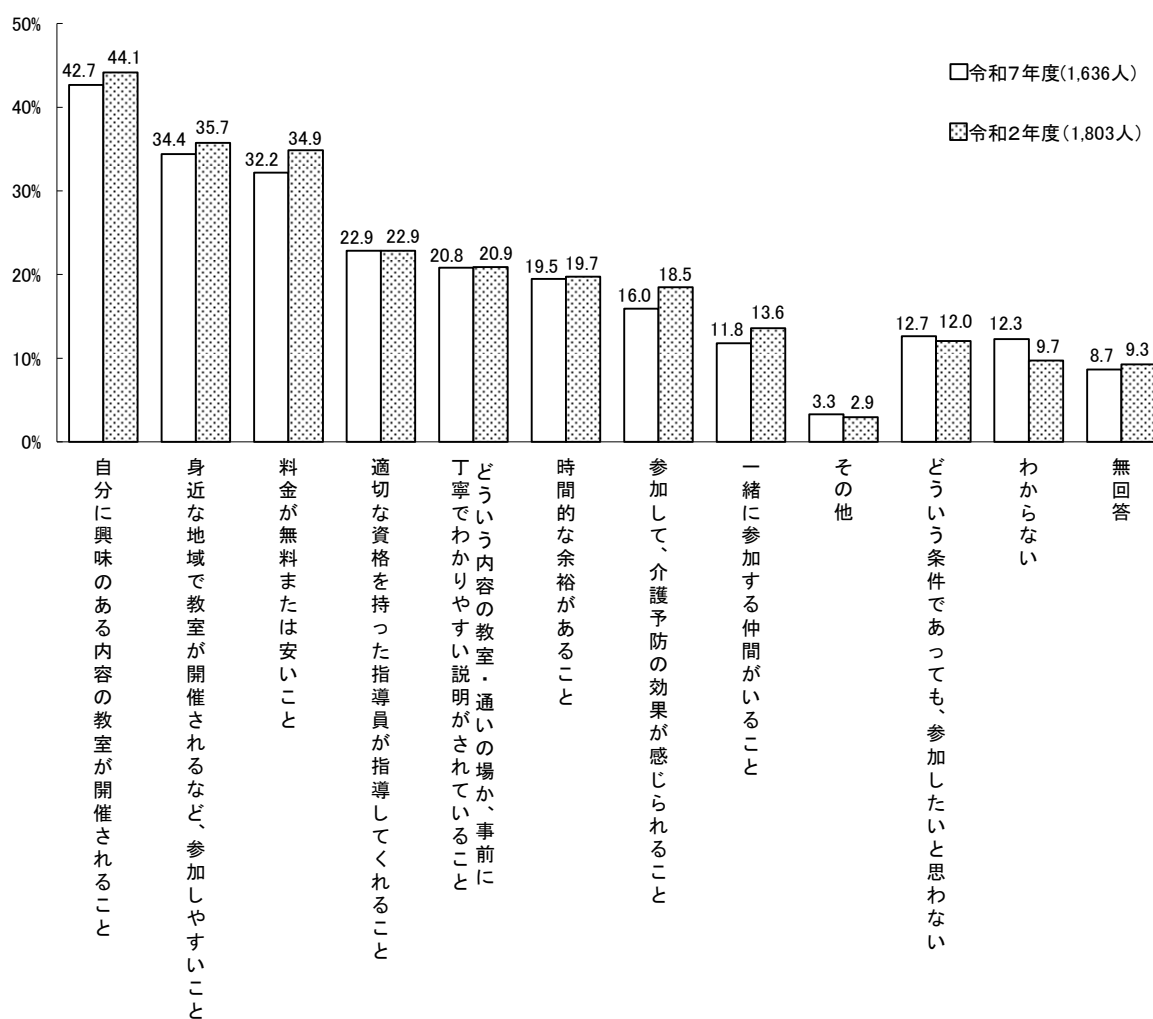
介護予防活動に参加するために必要となる条件は、「自分に興味のある内容の教室が開催されること」が最も高く、42.7%

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動を行っていない人（1,636人）に、そのような教室などに参加するために必要となる条件を聞いたところ、「自分に興味のある内容の教室が開催されること」の割合が42.7%で最も高く、次いで「身近な地域で教室が開催されるなど、参加しやすいこと」の割合が34.4%、「料金が無料または安いこと」が32.2%となっている。

一方、「どういう条件であっても、参加したいと思わない」の割合は12.7%となっている。（図4-13）

図4-13 介護予防活動に参加するために必要な条件〔複数回答〕

ー令和2年度調査との比較



(5) フレイルの認知度

「フレイル」という言葉を「知っている」割合は 36.3%

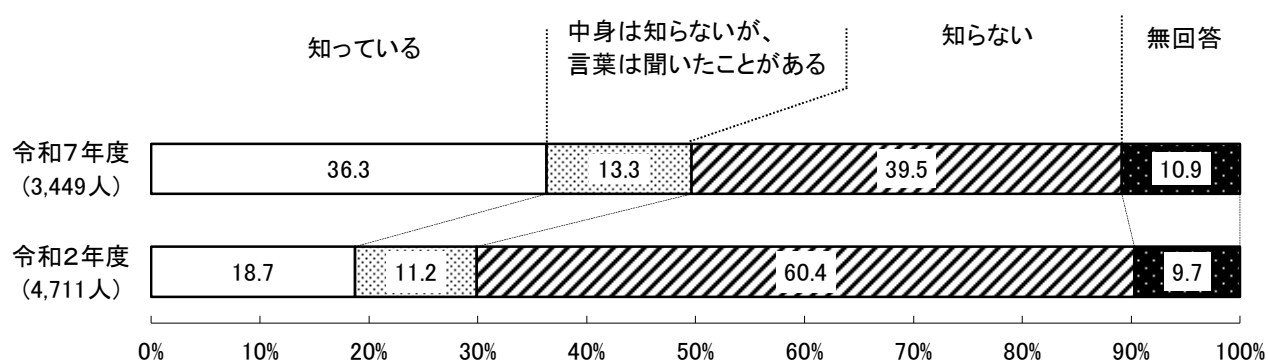
「フレイル」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」割合が 36.3%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 13.3%となっている。一方、「知らない」の割合は 39.5%となっている。令和 2 年度調査と比べて、「知っている」割合は 17.6 ポイント増加している。(図 4-14)

※ フレイルとは

年齢とともに心身の活力（筋力や認知機能など）が低下して、要介護状態となるリスクが高い状態で、「健康」と「要介護」の間をいう。

多くの高齢者が、フレイルの段階を経て徐々に要介護状態に至るとされている。

図 4-14 フレイルの認知度－令和 2 年度調査との比較



ア フレイルの認知度 ― 性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

フレイルを「知っている」割合は男性 28.4%、女性 44.1%

フレイルの認知度を性別でみると、「知っている」割合は、男性 28.4%、女性 44.1%と女性の方が 15.7 ポイント高くなっている。

動作能力類型別でみると、「知っている」割合は、障害のない高齢者が 43.4%となっている。(表 4-10)

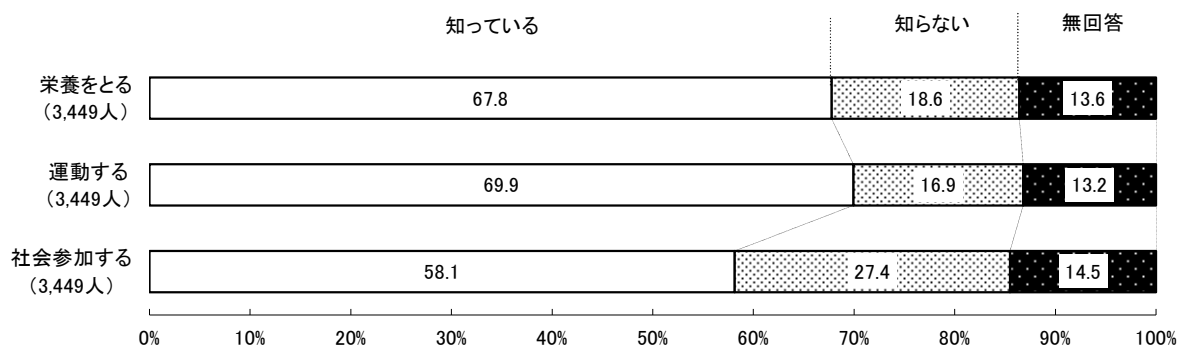
表 4-10 フレイルの認知度 ― 性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

		総数	知っている	言葉身は聞いたことが、ある	知らない	無回答
総数		100.0 (3,449)	36.3	13.3	39.5	10.9
性・年齢階級別	男	100.0 (1,708)	28.4	13.5	48.8	9.4
	65～74歳	100.0 (815)	30.2	12.3	52.4	5.2
	75～84歳	100.0 (695)	27.5	15.0	47.9	9.6
	85歳以上	100.0 (198)	24.2	13.1	36.9	25.8
	(再掲)75歳以上	100.0 (893)	26.8	14.6	45.5	13.2
	女	100.0 (1,741)	44.1	13.1	30.4	12.3
	65～74歳	100.0 (669)	51.0	13.3	30.8	4.9
	75～84歳	100.0 (731)	47.6	13.0	30.1	9.3
	85歳以上	100.0 (341)	23.2	12.9	30.5	33.4
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,072)	39.8	13.0	30.2	17.0
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (274)	10.6	5.8	31.0	52.6
	寝たきり高齢者	100.0 (99)	3.0	2.0	17.2	77.8
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (175)	14.9	8.0	38.9	38.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (392)	31.9	15.6	42.3	10.2
	軽い障害のある高齢者	100.0 (1,044)	40.9	13.8	40.1	5.2
	障害のない高齢者	100.0 (1,404)	43.4	13.5	38.1	5.0
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,206)	38.8	13.2	38.1	9.8
	ひとり暮らし	100.0 (1,004)	38.5	13.3	37.8	10.3
	配偶者と二人暮らし	100.0 (1,083)	39.9	12.7	38.1	9.2
	その他	100.0 (119)	31.9	16.0	40.3	11.8
	高齢者以外(65歳未満)がいる世帯	100.0 (1,139)	32.5	13.8	42.1	11.7

(6) フレイルの予防方法の認知度

「栄養をとる」、「運動する」及び「社会参加する」ことがフレイルの予防方法であることを知っているか聞いたところ、「知っている」人の割合は、「栄養をとる」が 67.8%、「運動する」が 69.9%、「社会参加する」が 58.1%となっている。(図 4-15)

図 4-15 フレイルの予防方法の認知度



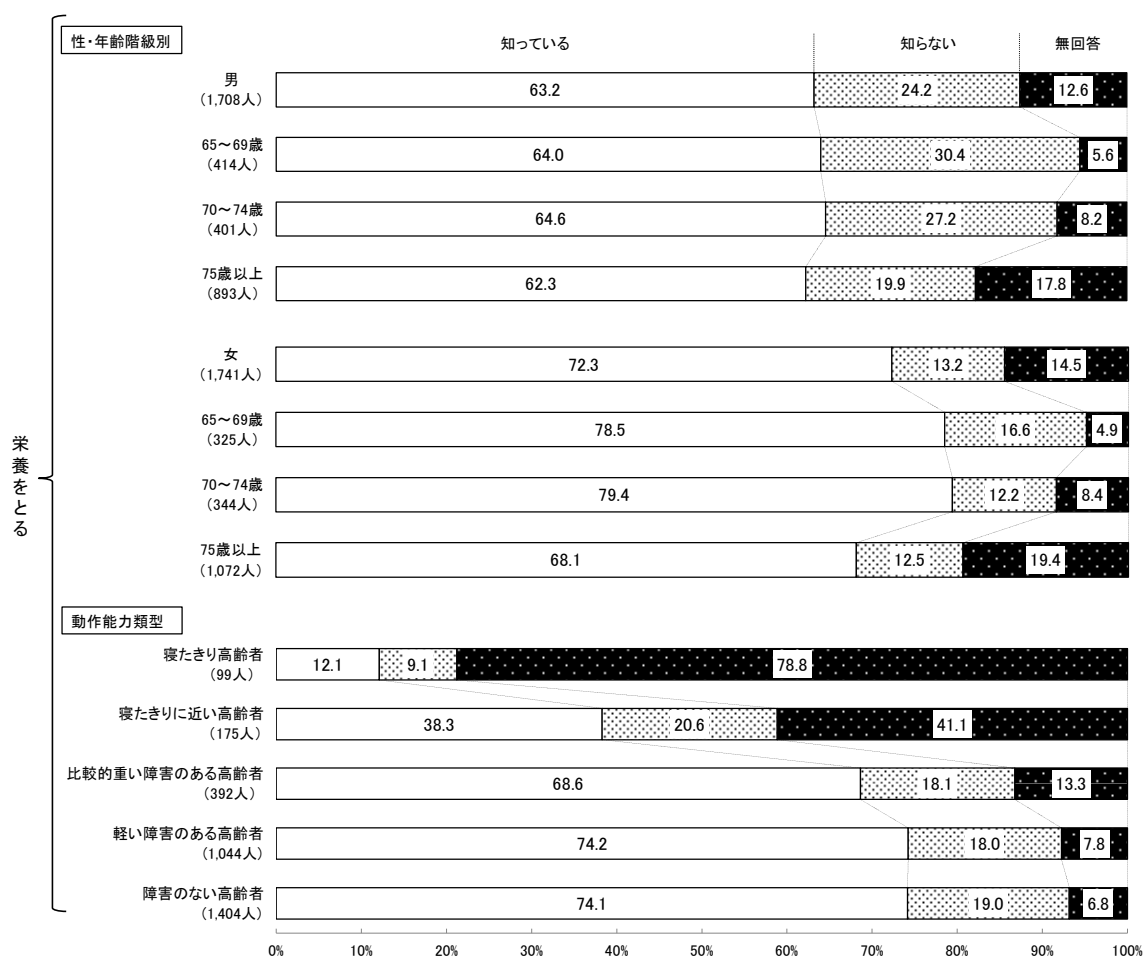
ア フレイルの予防方法の認知度－ 性・年齢階級、動作能力類型別

フレイルの予防方法を「知っている」割合は男性5割、女性6割を超えている

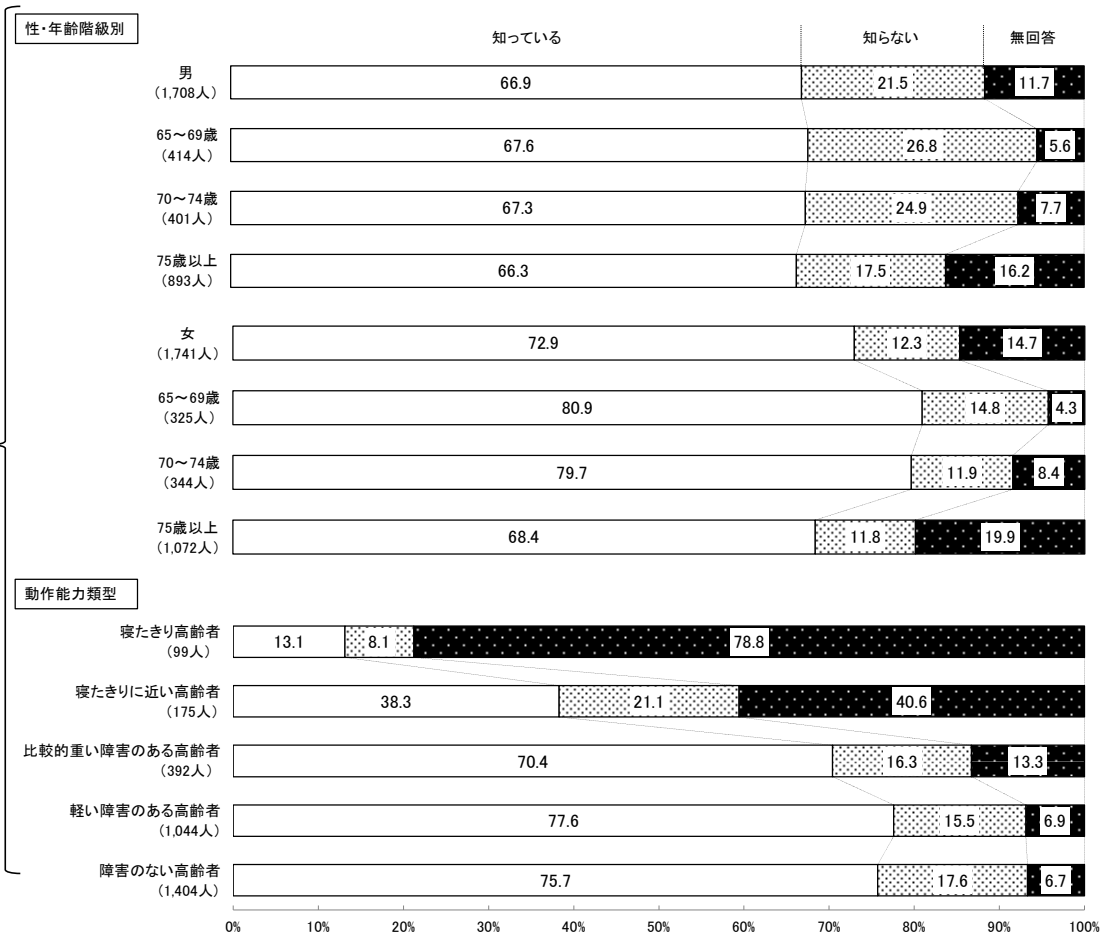
フレイルの予防方法の認知度を性・年齢階級別にみると、どの予防方法においても「知っている」割合は、男性5割、女性6割を超えている。(男性 50.6%～67.6%、女性 60.4%～80.9%)。

動作能力類型別にみると、障害のない高齢者では、予防方法を「知っている」割合は、栄養をとる 74.1%、運動する 75.7%、社会参加する 66.0%となっている。(図 4-16)

図 4-16 フレイルの予防方法の認知度－ 性・年齢階級、動作能力類型別



運動する



社会参加する

